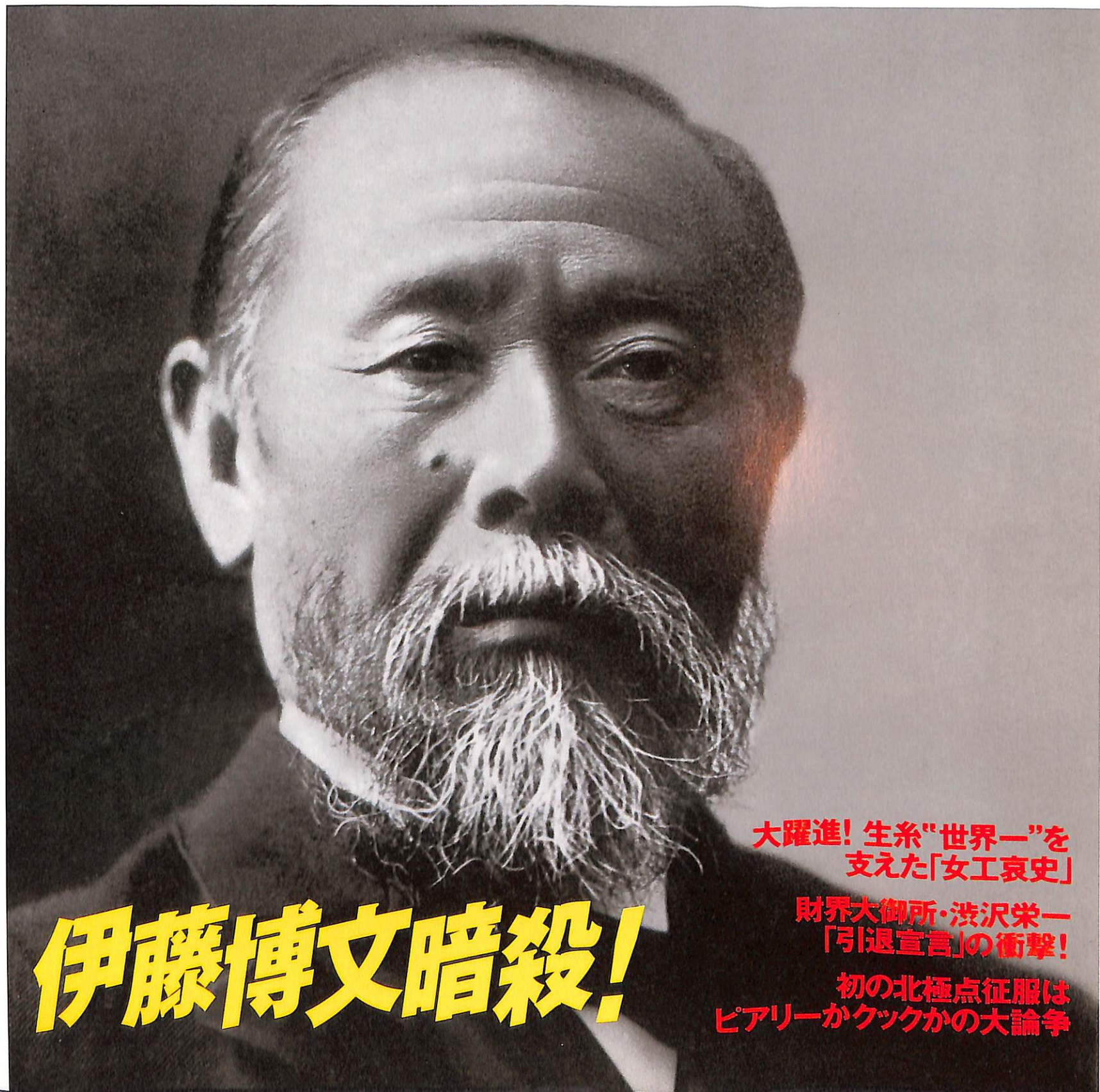
週刊 YEAR BOOK

日録20世紀

1909
明治42年

12|8
平成10年12月8日発行
（毎週1回火曜日発行）
第2巻第46号 通巻89号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

伊藤博文暗殺！

大躍進！生糸"世界一"を支えた「女工哀史」

財界大御所・渋沢栄一「引退宣言」の衝撃！

初の北極点征服はピアリーかクックかの大論争

日本人官吏も〝処刑〟を残念がったテロリストの素顔
「韓国併合」阻止をねらった三発の銃弾
ハルビン駅頭で安重根、伊藤博文を狙撃！

▲明治42年10月26日午前9時30分、ハルビン駅頭の伊藤（中左）。この1分後に銃声が響いた。

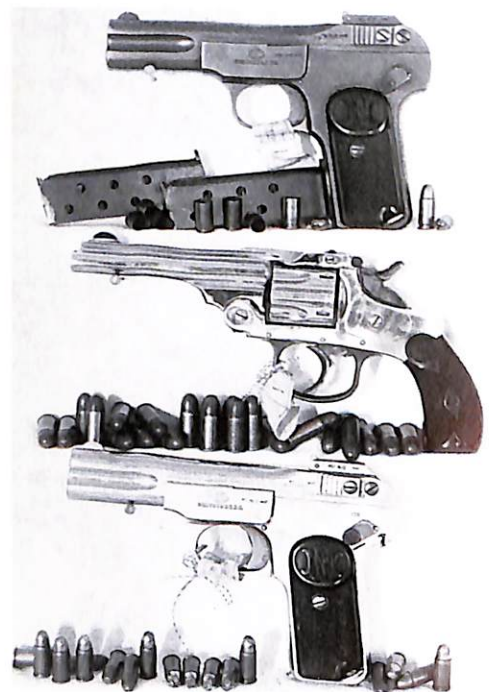
明治四二年一〇月二六日、ハルビン駅で三発の銃弾が、明治の元勲・伊藤博文を襲った。韓国併合の推進者であり、韓国の民衆から怨嗟のまとになっていた伊藤を射殺したのは安重根である。ところが、日本では「凶悪犯」としてその名を轟かせた安に、収容された旅順監獄では、畏敬の念を抱く日本人官吏が少なくなかった。今も韓国で英雄とされている、テロリストの意外な素顔とは。

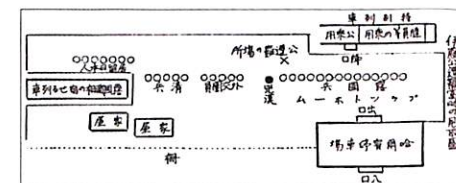
両肺と胸膜を貫通した二発の弾丸が致命傷に

伊藤博文枢密院議長（六八＝前韓国統監）が、ロシアに日本の韓国併合を認めさせるという使命を持ち、東清鉄道のハルビン駅（現・中国黒竜江省）に到着したのは、明治四二年一〇月二六日。午前九時、特別列車の貴賓車内で、伊藤と出迎えたココーフツェフ・ロシア蔵相（五六）が、田中清次郎南満州鉄道理事（三八）の通訳で挨拶を交わした。ホームにおり立ち、ロシア守備隊の閲兵を受ける伊藤。各国領事団との挨拶が続く。

その時、突然進み出てきた黒服にハンチング帽の韓国人・安重根（三〇）が、四、五メートルの距離から伊藤に銃弾をあびせた。九時三〇分、ブローニング式拳銃から発射された弾丸は、三発が伊藤に命中し、残りは田中理事の足、川上俊彦総領事の腕、森槐南宮内大臣秘書官の腕と肩を傷つけた。

▲伊藤が初代統監をつとめた韓国統監府。漢城（現・ソウル）市内南山の中腹にあり、韓国併合までの、日本の植民地政策の中心だった。

▲血に染まった伊藤博文のシャツ。富豪の家に生まれた安重根は、10代の頃から毎日狩猟に出かけ、射撃の腕は抜群だったという。 毎日新聞社

▲暗殺に使用された7連発の自動拳銃（上）と、安の仲間が持っていた銃。 龍谷大学図書館提供

▶安重根。韓国では義士とたたえられ、その死から89年たった今も、処刑された3月26日になると、ソウルで大規模な記念式典が催される。

▲事件直後の11月14日付「報知新聞」に載った「伊藤公遭難当時の見取り図」。×印が伊藤。

▶伊藤が特別列車からおりてくる直前の写真。左にロシア兵や外交団員、清国兵、出迎えの日本人の姿が見える。安はこの後ろから出てきた。
龍谷大学図書館提供

◎表紙　68歳の生涯を閉じた伊藤博文は、初代の首相・枢密院議長・貴族院議長を歴任、組閣4度。初代韓国統監、韓国併合の立て役者として、〝日帝植民地支配の主役〟でもあった。
フォン ザス 永子提供

日本人官吏も〝処刑〟を残念がったテロリストの素顔
「韓国併合」阻止をねらった3発の銃弾

ハルビン駅頭で安重根、伊藤博文を狙撃！

●明治42年10月20日、伊藤（中央）は、旅順・二龍山に登り、ロシア軍戦没者の墓を詣でた。伊藤は、この後、満鉄の特別列車で、遼陽、奉天（現・瀋陽）、撫順を経て、ハルビンへ向かう。
龍谷大学図書館提供（左下も）

不運なことに当日は、「自国人の警備は不要なり」と伊藤が日本官憲の護衛を拒否したのに加え、安が近づけるほどロシア軍の警備態勢は甘かった。

そのため、伊藤に命中した三発の弾丸のうち、二発が両肺と胸膜を貫通。これが致命傷となり、伊藤は気つけのブランデーを口にした後の午前一〇時、絶命した。列車に運ばれる際、随行員の一人に「何奴だ」とたずねた伊藤は、犯人は韓国人と聞かされると、虫の息で「バカな奴だ」ともらしたと言われる。

一方、安は、「コリア・ウアー」（「大韓万歳」）と三回叫び、身長一メートル六三センチの身体を取り押さえられた。連行されたハルビンの日本帝国総領事館で、安が当初、溝淵孝雄検察官に名乗ったのは偽名の「安應七」で、職業は「猟夫」。一族への迫害をおそれたのか、家族も財産も学問もないと答えている。

「伊藤公遭難」の急電が伝わった日本国内では、二六日午後から桂太郎首相（六二）や寺内正毅陸軍大臣（五七）、元老の山県有朋（七一）ら政府首脳が、情報収集のため続々と外務省に押しかけた。続いて「暗殺せらる」との追電を受けると、明治天皇（五七）がさっそく従一位への昇位と国葬開催を決定。伊藤が総裁をつとめていた立憲政友会は、二七日午後三時、異例の哀悼決議を採択した。

一一月四日午前一〇時三〇分から日比谷公園で行われた国葬には、総理大臣をはじめとする伊藤の華麗な経歴を裏打ちするように、関係者五〇〇〇人が参列し、各国元首からも多くの花輪が送られた。

伊藤狙撃は、日本が韓国併合の地ならしをしていた最中に起きた事件だった。明治三八年一二月に設置された韓国統監府で初代統監についた伊藤は、外交権、軍事力などを掌握し、四〇年七月には、第三次日韓協約を締結して内政を握った。対して、強制解散させられた韓国軍隊の失業兵士らによる「義兵闘争」が韓国全土で激化。まさに、騒然とした中で起きた事件に、日本国内の新聞は連日、安を「卑劣な暴漢」「死刑当然の奸賊」といった調子で書きたてたのである。

▲乃木希典陸軍大将らにともなわれ、日比谷公園に向かう伊藤博文の霊柩。「伊藤博文伝」

検察官をたじろがせた尋問での一貫した主張

しかし、日本側はすぐに「猟夫」がただの暴漢ではないと気づくことになる。

この年一〇月三〇日、第一回尋問が始まった。動機を問かれた安重根は、伊藤の罪状一五ヵ条——高宗妃・閔妃の暗殺、第二次・第三次日韓協約、高宗の廃位、軍隊解散など——をそらんじ、溝淵検察官を驚かせた。安が書いた自伝『安應七歴史』によれば、溝淵はこの時「今述べたことを聞けば、東洋の義士（高節の士）と言わねばならない」と語ったという。

「安應七」の正体は、黄海道海州の両班（貴族階級）に属する名家・安泰勲の長男・安重根で、一六歳の時に起きた「東学党の乱」（一八九四年の韓国の外国排斥運動）にかかわり、キリスト教に帰依した宗教家だった。三興学校と敦義学校を運営する教育者でもあったが、明治四〇年、ロシア領のウラジオストクなどで義兵を組織し、独立運動に立ちあがる。

安は計一一回の尋問（明治四二年一一月一日以降は関東都督府監獄署＝旅順監獄に移送）を受けるが、「伊藤公を殺し、罪状を裁判で明らかにすることで、日本の侵略主義を転換させられる」と一貫して主張。日本の韓国支配のメカニズムをも看破する洞察力に、検察がたじろぐ場面はあっても、引くことは一度もなかった。

「日清・日露戦争に反対していたとされる明治天皇の真意を裏切り、山県ら長州軍閥の意図を実現する形で、軍事的帝国主義に邁進していた伊藤の実像を、安は見抜いていました。そこで伊藤を排除すれば、韓国は独立できると考えていた。と同時に、韓国・日本・清国が協力して列強を排除し、東アジアに平和をもたらすべきとも主張した。彼は当時にして、世界市民的発想を持つ思想家でした」

と分析するのは、亜細亜大学の中野泰雄名誉教授である。実際、裁判所や旅順監獄には、彼の見識や人柄に敬意を払い、タバコなどを差し入れたり、記念の揮毫を所望する日本人官吏が絶えなかった。

こうした交流が韓国併合の障害になるのをおそれたのか、小村寿太郎外相（五四）は一二月二日、「極刑に処せらるることを相当なりと思考す」と統監府に指示。明治四三年二月一四日、政府の意向どおりに死刑判決が下された。

韓服姿の安が、旅順監獄で絞首刑に処せられたのは、同年三月二六日午前九時三〇分すぎ。遺体は、監獄から三キロ離れた共同墓地に埋葬され、その遺骨は弟や妻、三人の子どもには渡されなかった。

弁護を担当した、土佐出身の自由民権論者・水野吉太郎は、「生きていれば、韓国のために役立つ人になっただろうに」と処刑を無念がり、暗殺現場に居合わせた満鉄の田中清次郎でさえ、「今まで会った中で、誰が一番偉いと思うか」という安藤豊禄（戦後、小野田セメント社長）の問いに、「残念であるが、それは安重根である」と答えたという（安藤豊禄『韓国わが心の故里』）。

しかし、「伊藤の死で東洋の平和を実現する」という安の願いがかなうことはなかった。日本は明治四三年五月、寺内正毅を陸軍大臣のまま第三代統監に据えるなどの具体策を打ち出し、同年八月二二日には韓国を併合する。暗殺から、わずか一〇ヵ月後のことである。

▲処刑2日前、旅順監獄で弟二人（左端）と面会、洪錫九神父（左から4人目）の立ち会いで遺言を託す安重根（中央）。

李朝末期の人々

伊藤博文が対韓政策に着手した当時、韓国を治めていたのは、李朝の第26代皇帝・高宗（李太王）である。ところが、臣下に対する猜疑心が強く、どちらかと言えば優柔不断な人物だった高宗は、野心的な閔妃（明成皇后＝明治28年に三浦梧楼公使らによって暗殺される）の国政介入を招き、それが閔妃と皇帝の実父・興宣大院君との骨肉の争いに発展。こうした政局の混乱も、日本の韓国侵略を加速する原因となっていた。

明治40年7月、オランダ・ハーグの第2回万国平和会議に日本支配の不当性を訴える密使を送った報復措置に、伊藤は高宗（当時・55歳）を引責譲位させ、皇太子・李坧（当時・34歳）が第27代純宗に即位する。さらに、実質的な人質として、伊藤は新たに皇太子となった10歳の英親王（李垠）の日本留学を強行。英親王は同年12月15日の来日後、芝離宮を住居にして学習院初等科へ通学した。〝日韓融合〟という美名のもと、英親王が日本の皇族である梨本宮守正王の長女で18歳の方子と結婚させられるのは13年後の大正9年、英親王22歳の時である。

▶李垠（左）の韓国帰国が許されたのは、昭和三八年のことだった。

世界総生産高の三四パーセントを占める大躍進の蔭に

国をあげての技術改新と一日一五時間の労働と

生糸〝世界一〟を支えた「女工哀史」

明治四二年、政府が掲げた「殖産興業」の旗のもと、日本はついに〝生糸輸出高世界一〟に躍り出た。器械製糸の普及、蚕の品種改良を積み重ね、ライバルであるイタリア、中国を抜いたのだ。しかし、その蔭には、貧しい農村からの出稼ぎ女工たちの過酷な労働があった。

▲繰糸する女工たち。前に繭を煮る鍋があり、よりあわされた糸は、後ろの小枠に巻きとられる。 Library of Congress ユニフォトプレス

輸出港・横浜の活況と製糸工場の過酷な労働

唯一、日本生糸の輸出港であった横浜は、明治四二年七月一日、開港五〇周年を迎えたこともあって、活気に満ちあふれていた。そうした中で、「横浜貿易新報」などの新聞は、「売れ行きよろし」「追々騰貴」などと、生糸市場の様子や、商いの状況を伝えた。日本各地で生産された生糸は、横浜に出荷される。それを荷主の委託を受けて外商などに売りこむ売り込み商、ドイツに本社をおくポール・ハイネマン商会などの外商、三井物産などの日本商社、そして外国為替銀行などが軒を並べ、ここはまさに生糸の世界的流通センターとなっていたのである。

明治四二年、農商務省横浜生糸検査所へ入所し、その後、売り込み商・井上定吉商店に勤務した内田権蔵は、その好景気の様子を『横浜今昔』（毎日新聞横浜支局）の中で、こう記した。

「一ヵ月二五円だった給料がいっきょに四倍の一〇〇円にハネ上がり、びっくりしました。生糸も一〇〇斤（六〇キロ）八〇〇円から一〇〇〇円、一二〇〇円と暴騰また大暴騰、四四〇〇円に達したこともあり、糸屋の暮しは豪勢をきわめ、〝糸屋にあらずんば人にあらず〟といわれるくらいにわが世の春をうたったこともあった」

それもそのはず、日本の生糸生産高は、この年、明治四二年には八三七二トンに達し、イタリア、中国を引き離し、世界総生産高二万四五一〇トンの三四パーセントを記録。輸出金額も一億三三〇〇万円と、一躍、世界のトップに躍り出たのである。それは、日本の輸出総額の実に約三分の一を占めた。ちなみに、そのほかの主要な日本の輸出品は、綿糸、絹織物、銅などだった。

▲長野県岡谷の「模範職工表彰式」。優秀な女工は少なく、経営者は引き抜き防止に懸命だった。 毎日新聞社

しかし、この〝生糸輸出世界一〟を支えた人々、すなわち「女工」たちの労働は過酷であった。当時、製糸業に従事する労働者は、約七九万五〇〇〇人。五人以下の小規模な工場で働く人も含め、その九四・七パーセントが「女工」と呼ばれる女子労働者である。

たとえば、農商務省商工局が明治三六年に刊行した『職工事情』によれば、製糸工場の場合、紡績工場のように徹夜作業はないが、午前五時前には仕事を開始、午後七時すぎまでの長時間労働を強いられていた。特に、長野県諏訪地方の製糸工場は毎日平均一五時間、市場が好況になると、それが一八時間にもおよぶことが、しばしばあると指摘している。

その背景には「等級賃金制」と呼ばれる独特な賃金制度があった。それは賃金の総額をあらかじめ決めておき、その範囲で作業成績に照らし各人に配分するものであった。

作業成績は、繰糸量、一定量の繭から取れる糸の量、太さの均質性、光沢などで決められ、糸の品質と生産量は「女工」たちの腕にかかっていた。そのため、他人の賃金上昇が、自分の賃金低下となって、すぐにはねかえってくることもあった。「女工」間の競争は激しいものとなり、その結果、長時間労働を強いられることとなったのである。また、腕のいい「女工」の引き抜きも頻繁に起こったほどである。

当然、「女工」たちの賃金にも大きな格差が生じていた。彼女たちの賃金は稼働期間の七月頃から一二月中旬までで、三〇円から七〇円、「一〇〇円女工」も現れ、村人から羨望の目で見られた人もいた。とはいえ、それは、当時の公務員の初任給五〇円に比べれば、あまりの低さであった。

米国向けの品質追求が輸出世界一への武器に

「富国強兵」「殖産興業」の旗を掲げ、近代産業の育成をはかる明治政府にとり、外貨獲得の最有力産業である生糸の生産と輸出の拡大はまさに急務であった。

明治二七年の日清戦争前後には、質量とも、イタリア、中国に次ぐ世界第三位

▶花嫁が上がりとなっている「女工双六（すごろく）」。 倉紡記念館提供

▲長野県諏訪で行われた「米国絹業視察団」の歓迎会。製糸業は、米国の好不況で浮き沈みが激しかった。 毎日新聞社

の蚕糸国となっていた日本は、治外法権と関税自主権の欠如を条約改正で克服し、外商の圧力をはねのけていった。

政府は一方で、明治三二年に京都蚕業講習所を創立、三八年には蚕病予防法、四〇年には桑園増殖奨励費交付規則を公布するなど、製糸産業の育成をはかる。

生産面で威力を発揮したのは器械製糸である。それは洋式機械の一部を従来の製糸器に取り入れ、繰枠を水力や蒸気の力で回転させるものである。煮繭もボイラーによるものに変わり、より均一的な糸を生産できるようになった。

〝生糸輸出世界一〟へ向けては、追い風も吹いた。アメリカの絹織物産業の発達にともない、アメリカの力織機にマッチする品質を追求した日本生糸への需要が高まっていった。明治末期には日本の生糸輸出は八～九割がアメリカ向け、一方、アメリカが外国から輸入する生糸の七～八割までが日本産のものとなっていた。

「さかのぼれば、一九世紀のなかば、フランスで蚕病が猛威を振るい、壊滅状態におちいったため、日本の蚕に対する需要が徐々に高まっていったのです。明治末期になるとアメリカの絹需要がふえたことなどが日本を〝輸出高世界一〟に導くのですが、蚕の品種改良と育成、蚕業試験場での生糸の高品質化など、必死の努力があったことも見逃せません」

こう語るのは、横浜シルク博物館の小泉勝夫部長である。

こうして日本の生糸産業は、政府主導のもと産業機械などを西欧から導入、自前の原料と安い労働力を駆使して、一大工業国に発展する礎を築いたのである。

産業史に詳しい拓殖大学の鈴木正俊教授は、「今、日本は貿易黒字や内需拡大問題で国際的非難をあびていますが、もともと生糸や綿糸など、明治期に誕生した加工貿易型産業がその原点にあります。しかし、資源の少ない日本が世界に伍していくためには、貿易立国として製品輸出をふやしていく以外に道はなかったのです」と語っている。

▶輸出の際、商品に添付された生糸ラベル。右の三点は、いずれも外国商社のもので、デザイン、印刷とも、当時の最先端をいくものだった。

女たちの肖像

世界美人投票で第六位！学習院生・末弘ヒロ子の退学処分とその後の人生

稲葉真弓

この年の一月、「時事新報」「報知」など、各新聞に華々しいニュースが載った。「世界美人投票に末弘ヒロ子第六位」

コンテストを主催したのはアメリカの新聞社、シカゴ・トリビューンで、同社は二年前の明治四〇年、世界の各新聞社に美女の写真募集を依頼、委託された時事新報社が全国の新聞社に協力を呼びかけ、初の本格的ミス・コンテストを開催。ここで日本一となった当時一六歳のヒロ子が、世界美女ランキング六位に選ばれたのである。

これまで日本の美人コンテストは、水商売の女性が対象だった。今回は、世界初参加の大イベント。新聞社は応募の対象を良家の淑女にしぼり、容姿、品性とも世界に通じる美女をさがそうとしたのである。審査員には、洋画家の岡田三郎助、彫刻家の高村光雲、歌舞伎俳優の中村芝翫など目利きが顔をそろえ、老舗協賛店が豪華な着物やダイヤの指輪などの賞品を提供したこともあって、応募写真は七〇〇〇枚を超えた。

▶家人も知らない間に〝日本一〟となったヒロ子。

時事新報社『日本美人帖』／資生堂提供

このミス・コンは、思わぬ波紋を呼んだ。ヒロ子は福岡県小倉市長・末弘直方の四女で、学習院女学部中等科三年に在学中。これを知った学習院が、退学処分にすると言い出したのだ。院長は剛直で鳴る乃木希典。「色を売るような行為で、わが校の尊厳を汚された」という理由だった。

ヒロ子にとっては寝耳に水の話だった。応募したのは、浅草で写真館を経営していた義兄にあたる江崎清で、撮影した彼女の写真を無断で送ったのである。ヒロ子はすぐに取り消しを頼んだが、時すでに遅し！しかも学習院の対応が明らかになると、「はたして美人写真募集は悪行か否か」と大論争が巻き起こる騒ぎへと発展した。

彼女は退学の意思を固めたが、ここに意外な縁談が舞いこんだ。退学処分を決めた乃木自身が仲人役になり、彼女と陸軍元帥・野津道貫の息子・鎮之助を結婚させたのだ。〝世界六位〟の報が巷に流れた時、彼女はすでに野津侯爵夫人となっていた。

結婚後のヒロ子は、その美貌と気品から社交界の花となり、家庭人としても四人の子どもをもうけた。平穏な暮らしの後、昭和三八年、七一歳で死去したが、野津家では美人コンテストの話はタブー。同家を取材した作家の千谷道雄によれば、勝手に応募され、一人歩きしてしまった自分の写真に困惑をおぼえるのか、この話が出るたびにヒロ子の顔は曇ったという。

勝者・敗者

日本初のマラソンレース！神戸—大阪間の三二キロ弱を二時間一〇分五四秒で走破

阿部珠樹

大昔から、馬で行くよりテクテク歩くのが庶民の伝統だったせいだろうか、明治になっても、日本人は長距離走が大好きだった。明治三〇年代になると、新聞社の主催で、次々に長距離走の競技会が開かれるようになる。

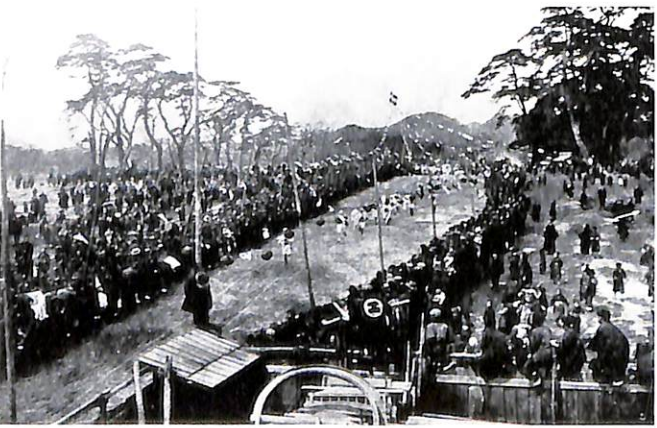
口火を切ったのは時事新報社で、明治三四年一一月、東京・上野の不忍池畔で、一二時間におよぶ長距離走大会を催した。コースは一周約一四七七メートルだったが、このコースを半日もグルグルまわり続けるのは、選手にとってさぞ苦痛だっただろう。

次いで同じ年の一二月には、大阪毎日新聞社が、八時間競走を開催した。こちらも一周半マイル（約八〇〇メートル）のコースをひたすらまわり続けるもので、この頃の競走は、一定の距離をどれくらい速いタイムで走るかよりも、一定の時間内でどれくらい長い距離を走るかに主眼がおかれていたのがわかる。

しかし、世界の趨勢は、現在の長距離走のようにタイムを競うレースになっていた。たとえば明治四一年に開かれたロンドン・オリンピックでは、初めて現在のマラソンと同じ四二・一九五キロの距離で優勝が争われている。

これを受けて、日本でもさっそく「マラソン」と銘うったレースが行われた。この年、明治四二年の三月二一日のことである。大阪毎日新聞社が主催し、神戸—大阪間三一・六九七キロの距離を最も速く走ったものが優勝、というオリンピックのマラソンに近い大会であった。なぜこうした中途半端な距離が設定されたかは明らかでないが、いずれにしても、これが本邦初のマラソン大会であった。

結果は、岡山県の在郷軍人・金子長之助（二七）が、二時間一〇分五四秒でみごとに優勝。二位に五分近くもの大差をつける圧勝だった。二時間一〇分と言えば、現在はフルマラソンの優勝タイムである。九〇年間の記録の伸びをめざましいと見るべきか、案外と見るべきか——。

秩父宮記念スポーツ博物館提供

▲優勝の金子には、優勝旗のほか、賞金300円や賞品多数が贈られた。

ニュース・ファイル 1909

フォト＋日録で再現する365日

相撲の常設会場として国技館が誕生したこの年、演劇の世界では新劇樹立の試みとして、自由劇場と文芸協会の演劇研究所がうぶ声を上げた。一方、韓国併合へひた走る日本には、伊藤博文がハルビン駅で韓国青年のテロに倒れるという、思わぬ事件が待っていた。

毎日新聞社

▲新橋芸者が映画出演（1月）吉沢商店が、前年に完成した日本初の撮影所、東京・目黒撮影所で、米国輸出向け舞踊映画を製作。写真は、その折の記念撮影。

▲宮相・田中光顕スキャンダル（1月）65歳の大臣と19歳の町娘の縁談が話題となったが、娘が仲介者の情婦だったと報道され、大醜聞に発展。田中は28日、結婚を断念した。

▼米・カナダ、ナイアガラ滝保護協定（1月30日）流域からの取水は灌漑・発電用に限り、量も一定以下に。水力発電所建設と工場進出で、滝は4分の1の水量になっていた。

CORBIS-BETTMANN／PPS

毎日新聞社

▲「電小僧」御用（1月29日）神奈川の別荘・旅館荒らしをついに検挙。たくみな忍び入り方の犯人は、東京・赤坂で華族然と暮らしていた西尾柳喜（25）。写真は愛人姉妹と。

▶シャクルトン、南極極点に迫る（1月19日）2年前に英国を出発、越冬し、南緯88度23分にいたった。極点到達は1911年、アムンゼンが初めて達成する。

「イリュストラシオン」

北海道大学附属図書館所蔵

◀北海道庁、全焼（1月11日）午後6時半、地下印刷室の煙突から出火、深夜2時すぎまで燃え続け、明治19年竣工の煉瓦造り3階建て地下2階の本庁舎を失った。死者はなく、12人が重軽傷。

◀京都・西陣で悪税撤廃デモ（2月23日）織物業者5000人が上京区の妙蓮寺に集合し、提灯をつらねて代議士宅や新聞社の前で気勢。物価高騰にあえぐ零細企業にとって、織物税は生産・貿易をさまたげる死活問題だった。

毎日新聞社

明治42年1月

1（金）●大阪の住友本店が住友総本店と改称。

2（土）●清国の摂政王・載灃、軍機大臣・袁世凱を罷免。

3（日）●東京市内の自動車は三八台、と新聞に。

4（月）●韓国皇帝、全国を巡幸。伊藤博文統監が随行。

5（火）●青森県地引村で汽車の飛び火から七五戸焼失。
●馬肉鍋二銭の安売り店が東京で繁昌と新聞に。

6（水）●金融市場、新規需要少なく取引緩慢と新聞に。

7（木）●亀戸天神の初卯に、繭玉屋四二〇店余が出店。

8（金）●仏議会、死刑廃止案を否決。

9（土）●米国とコロンビアがパナマの独立を承認。
●文部省、学校主催の講演会・記念会・運動会などが華美・浮薄に流れないよう訓令。

10（日）●大日本精糖で粉飾決算発覚、重役陣総退陣（日糖疑獄事件の発端となる）。

11（月）●東京・亀戸の東洋モスリンの男女職工八〇〇人、賃上げ要求のストライキ。
●北海道庁から出火、庁舎全焼。

12（火）●トルコ、オーストリアのボスニア・ヘルツェゴビナ二州併合を承認。

13（水）●活版印刷組合が職工養成所設置計画と新聞に。

14（木）●福島県大甕村役場が大雪のため倒壊。

15（金）●鉄道院、神田に市内営業所を設置し乗車券発売・手小荷物受託・案内などを始める。

16（土）●「シカゴ・トリビューン」紙の世界美人コンテストで末弘ヒロ子が第六位、と新聞に。

17（日）●東京・芝公園で新聞紙条例改正反対記者大会。

18（月）●台湾の四〇年末人口は三一〇万人余と新聞に。

19（火）●英の南極探検家、アーネスト・シャクルトンが南緯八八度二三分に達し、石炭層発見。

20（水）●露に「三重丸」拿捕事件の損害賠償を要求。

21（木）●神田の青年、浅草十二階より飛び降り自殺。

22（金）●露、フィンランドの自治権要求を拒否。

23（土）●米・ナンタケット島沖で豪華客船と汽船が衝突、救難無線により乗員乗客一六五〇人救う。

24（日）●深川不動の寒詣りは例年の五割増と新聞に。

25（月）●秋田で小坂鉄道設立（5月7日、開業）。

26（火）●本所・陸軍糧秣廠から出火（29日再出火、全焼）。

27（水）●露の上院、極東自由港廃止法案可決。

28（木）●新聞一五社の新聞紙条例違反裁判始まる。

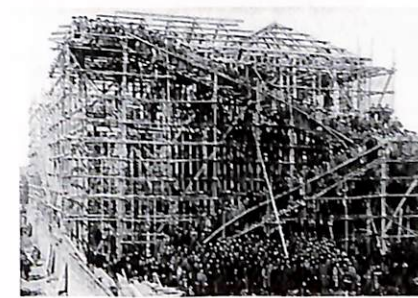
29（金）●神奈川県下の別荘・旅館荒らしの泥棒「電小僧」が逮捕される（2月10日脱走、22日再逮捕）。

30（土）●米国・カナダ、ナイアガラの滝保護協定を締結。
●クロポトキン著、平民社訳『麺麭の略取』発禁。

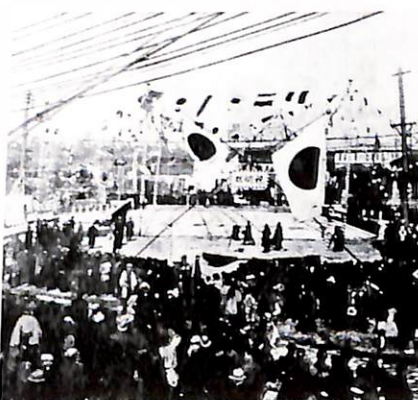
31（日）●東京の小学生の三割が「しもやけ」と新聞に。

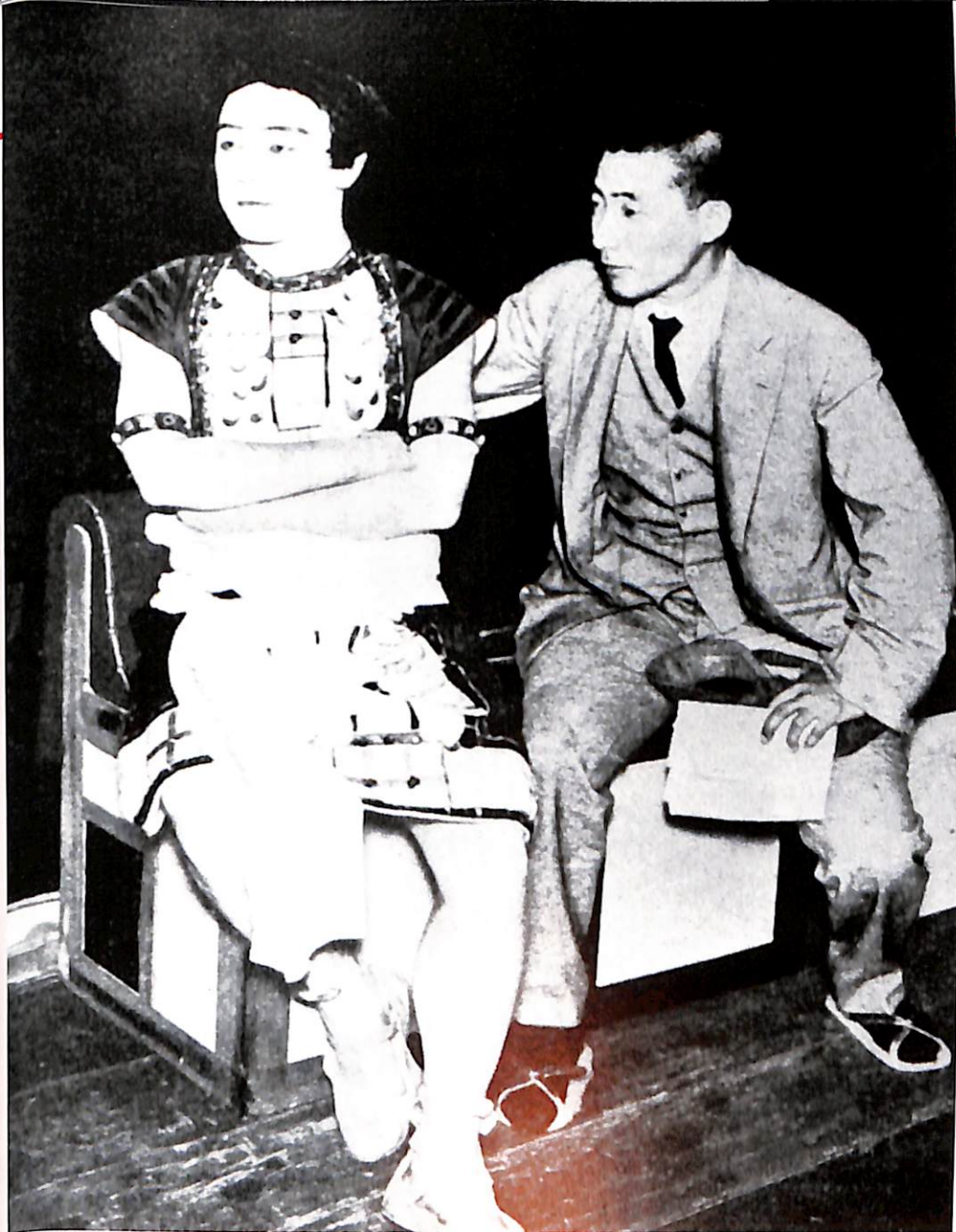
◀**新納忠之助、訪米(2月10日)**ボストン美術館が、東洋美術部につとめていた岡倉天心を介し、仏像修理を依頼。新納は、天心が結成した日本美術院の彫刻部門の中心人物だった。

日本美術院提供

▶**女子美術学校、上棟(2月26日)**明治34年開校の校舎が焼失のため、東京・本郷に新築。階上から階下まで、生徒がつらなって、学期始めの落成を待ち望んだ。

「婦人画報」

「イリュストラシオン」

▲**国際阿片会議開く(2月1日)**13ヵ国が参加し、上海で開催。密輸入の防止、清国の外国人居留地での吸引所閉鎖などを決議したが、栽培制限は英国が反対。写真は、阿片反対の民衆。

「グラヒック」

▶**数寄屋橋、完成(2月25日)**東京の市区改正事業で造成した、銀座から外濠を渡って日比谷にいたる直線道路に併せて新装。第2次大戦後、ラジオ「君の名は」で有名に。昭和33年撤去。

▲**自由劇場、創立(2月)**演出家・小山内薫(写真右)と歌舞伎俳優・2代目市川左団次(左)が、演劇革新をめざして結成。11月の第1回公演、イプセン作・森鷗外訳「ボルクマン」は大好評。

「イリュストラシオン」

▶**セルビア王国、軍備増強(2月24日)**前月、オーストリアがトルコから買収したボスニア・ヘルツェゴビナを、「大セルビア主義」にのっとり自国領土と主張。一触即発の危機に。

明治42年2月

1(月)●上海で阿片禁止のための国際会議開催。
●米国、キューバにリベラル派大統領誕生を機に、軍政をやめ駐留軍を撤退させる。
2(火)●小村寿太郎外相の「米・加への移民を制限し、満(中国東北部)・韓に集中」の演説が問題化。
3(水)●米国・カリフォルニア州議会が外国人土地所有を禁止するドリュー法案(排日法)を否決。
4(木)●郵便電信電話滞納料金徴収規則を制定。
5(金)●大阪商船の「タコマ丸」(六〇〇〇トン)進水。
6(土)●警視庁、ネズミ駆除に飼い猫奨励通達。
7(日)●警視庁が自動車最高速度を市内一二・八キロ、郡部一六キロに制限、と新聞に。
8(月)●独仏協定調印。モロッコにおける独の経済的権益、仏の政治的権益を相互に認める。
9(火)●鉄道院大宮工場で貨客車五〇台の欠陥発覚。
10(水)●自殺名所の由比ケ浜に「煩悶相談所」と新聞に。
11(木)●日比谷公園で憲法発布二〇周年記念祝賀会。
12(金)●前年の米作は平年より一四・三％増と新聞に。
13(土)●自由主義路線のトルコ首相が失脚、民族主義派のヒルミ・パシャが後任に。
14(日)●警察協会、法令教習の警察官練習所を開設。
15(月)●海軍水路部が測量課内に気象調査掛を設け、海上気象・潮流などの調査を開始。
16(火)●台湾総督府鉄道と大阪商船が神戸―基隆間の船車連絡を開始。
17(水)●アパッチ族の指導者・ジェロニモ死去。
18(木)●朝日新聞社、人生相談の「朝日相談所」開設。
19(金)●勅令で市町村立小学校教員の年功加俸および特別加俸を平均五〇％増額。
20(土)●伊の詩人・マリネッティ、「フィガロ」紙に現代文明を賛美する「未来派宣言」を発表。
21(日)●米国のホワイト・フリート艦隊、四三四日間の世界一周航海から帰港。
●水産講習所の実習用帆蒸気船「雲鷹丸」進水。
22(月)●長崎県対馬の竹敷要港職工六〇〇人、賃下げに反対して暴動を起こす。
23(火)●長春駅で日露両鉄道の連絡事務始まる。
24(水)●領土問題からオーストリアとセルビアの関係が緊迫、戦争の危機が高まる。
●英・ブライトンで世界初の色彩映画公開。
25(木)●東京の数寄屋橋、開橋式。
26(金)●東京高商の校長排斥運動で学生五人退学処分。
27(土)●憲政本党、党規を乱したとして犬養毅を除名。
28(日)●不景気で三〇銭ほどの内裏雛が人気と新聞に。

証言・あの日この日
高村光太郎(26)

3月25日(木)〈僕は来月あたり船にのりこんで帰途につくかも知れない。金の都合で一寸わからない。／巴里の街は青葉が盛んで今実にいきいきとした景色をしてゐる〉(高村光太郎『高村光太郎全集』第14巻)

彫刻家・高村光雲の息子、高村光太郎は、父の期待を担ってロンドン・パリに留学し、彫刻や絵の勉強をしていた。見るもの聴くものすべてが新鮮で、驚きの連続だった。中でも光太郎を驚かせたのは、ロダンのような「芸術家」の存在だった。彼らに比べれば、父なぞは一介の「職人」にすぎないように見える。しかし、ある日「身体を大切に、規律を守りて勉強せられよ」という父からの手紙を受け取り、光太郎は愕然とする。この頃は光太郎もいっぱしの芸術家気取りで、遊びほうけていたからで、深く反省し、やがて帰国を決意する。(山崎行太郎)

「イリュストラシオン」

▲**米新大統領・タフト、初登院(3月4日)**前年、ルーズベルトの後継者として共和党から立候補、第27代大統領に就任。写真は前大統領(左から4人目)と登院するタフト(その右)。

▲**永井荷風の『ふらんす物語』発禁(3月25日)**内務省が収録2作品に横槍。フランス帰りの荷風の、男女関係の描写や文明批評が「安寧秩序を乱す」とされた。

▼**「世界一周会」日本を出発(3月20日)**英国の老舗旅行会社、トーマス・クック・アンド・サンズ社と東京朝日新聞が共催。豪華客船「地洋丸」に日本人希望者5人が乗りこんだ。

毎日新聞社

「グラヒック」

▲**憲法発布20周年記念祝賀会(2月11日)**東京市主催の式典を、日比谷公園音楽堂で盛大に開催。桂首相らを前に、尾崎行雄東京市長は、「憲政の基礎は自治団体にあり」と式辞を述べた。

「グラヒック」

▲**和田三造、渡欧(3月23日)**文部省留学生として、フランスを中心に各国を巡遊。明治33年、黒田清輝に師事。第1回文展で外光主義の傑作「南風」を発表、気鋭の洋画家だった。

明治42年3月

1(月)●北海道の函館図書館、開館。
2(火)●衆議院議長、一二歳以下の傍聴を禁止。
3(水)●対馬でダイナマイト使用の漁師六人を逮捕。
4(木)●米国新大統領、ウィリアム・タフトが就任演説。
●全国織物業者、東京で織物消費税全廃大会。
5(金)●警視庁の各署がスリの写真を持ち寄り、スリ係のために顔写真展覧会を開催、と新聞に。
6(土)●奈良県大塔村の土砂崩れで役場が倒壊。
7(日)●新潟の日本天然瓦斯、天然ガスを掘りあてる。
8(月)●度量衡法を改正し、尺と貫を基本とする。
9(火)●衆議院、塩専売・織物・通行各税廃止案を否決。
10(水)●石川日出鶴丸が初の体系的生理学教科書『石川生理学』を刊行。
11(木)●逓信省、清国・韓国との郵便による輸出入禁制品(兵器や阿片など)を公示。
12(金)●英、独の海軍力増強に対抗し新艦隊法可決。
13(土)●四二年度総予算案成立。歳出五億一二九四万円、軍事費は歳出の三二・六％。
14(日)●海軍練習艦「阿蘇」「宗谷」、遠洋航海に出発。
15(月)●福島県川内村民五八人を官林盗伐で勾引。
●日銀、金沢出張所を開設。
16(火)●地理学者・ペンク博士、「天洋丸」で横浜着。
17(水)●東京・青山に近衛師団家族診療所を開設。
18(木)●大阪税関の小蒸気船が沈没、職員一人死亡。
19(金)●オーストリアがセルビアにボスニア・ヘルツェゴビナ併合の承認を要求する最後通告。
20(土)●広島県沼田郡の農民三〇〇〇人余、共同苗代に反対して騒動起こす。
21(日)●日本初のマラソン大会(主催・大阪毎日新聞)、神戸―大阪間で行われる。
22(月)●改正帝国鉄道会計法を公布。益金の建設・改良費への流用を認め、鉄道特別会計を確立。
23(火)●ペルー移民送還事件で明治植民会社営業停止。
24(水)●二〇日転覆の漁船員一人が茨城県に無事漂着。
25(木)●遠洋航路補助法を公布。遠洋定期航路に就航する三〇〇〇トン以上鋼製汽船に補助金交付。
●永井荷風の『ふらんす物語』が発禁処分。
26(金)●露、ペルシャのシャー支援でペルシャ北部に進駐(4月29日、タブリーズを占領)。
27(土)●旅順に日本人のための中学校を設立。
28(日)●東京で工業改良協会発会式。
29(月)●花見の掛茶屋賃貸料、例年の一割安と新聞に。
30(火)●ニューヨークのクイーンズボロ橋が開通。
31(水)●大蔵省、販売所全廃などの専売局改革を実施。

「写真タイムス」

▲**東京・芝の増上寺炎上(4月1日)**深夜、本堂床下より出火、本堂・護国殿などを焼きつくした。増上寺は浄土宗大本山で、徳川家累代の墓がある。浮浪者の火の不始末が原因。

▼**「お花見レース」開催(4月10日)**東京・隅田川で、東京帝大の分科対抗競漕が行われ、河岸は大混雑。明治20年創始。春の季語にもなった行事で、4つの科が優勝旗を競った。

「グラヒック」

▲**ボクシング対柔道(5月3日)**横浜停泊中の英国東洋艦隊乗員が、日本人柔道家と横浜・羽衣座で勝負。結果は柔道の勝ち。明治30年代中頃から柔道は、米国や欧州に知られていた。

▶**三越少年音楽隊、初演奏(4月1日)**海軍軍楽隊出身の楽長と、一般募集の15人で編成、「児童博覧会」で初演奏。顧客を呼ぶ販促策だったが、店外の行事でも活躍。

「三越歴史写真帖」/三越提供

「イリュストラシオン」

▲**ジャンヌ・ダルク、列福式(4月19日)**15世紀の百年戦争の時、異端者で魔女と断罪された少女を、奇跡治癒の審査でローマ法王が「福女」と承認。11年後「聖女」となる。

「グラヒック」

◀**東京・上野公園で発明品博、開催(4月1日)**全国各地から、538人が出品。特許登録件数は1503件におよんだ。写真は、共益商社が輸入したオケストロフォン。鉄の車をまわすと合奏曲が流れた。

「写真タイムス」

明治42年4月

1(木)●仏のクレマンソー内閣、郵便労働者のCGT(労働総同盟)加盟要求を拒否。労働争議拡大。
●東京・芝の増上寺本堂が全焼。
2(金)●東京で発行する通信七社、東京通信組合結成。
3(土)●全国の私立学校は二七六校、学生数一〇万九一八〇人、と新聞に。
4(日)●在外邦人約一二万人で米に七万人余と新聞に。
5(月)●立ち木を不動産とみなす法律公布。
6(火)●米国の探検家、ピアリーが北極点到達。
●農商務省、トロール漁業取締規則を公布。
7(水)●文部省、東京盲唖学校とは別に東京盲学校を新設し、盲教育と聾唖教育の分離をはかる。
●青森県で突風のため列車転覆、死傷者三〇人。
8(木)●徳島県辻町で吉野川渡し船転覆、一七人死亡。
9(金)●産業組合法改正。連合会・中央会組織を認可。
10(土)●大阪・今橋の銃砲店で火薬爆発、二二人死亡。
11(日)●日糖疑獄事件で関係者の検挙始まる。
12(月)●真言宗連合高野大学(後の高野山大学)開校。
13(火)●トルコ革命に反対の第一軍団がイスタンブールで蜂起(24日、青年トルコ党が鎮圧)。
●貴族院令改正を公布し、男爵議員の定数五六人を六三人に拡大。
14(水)●新生児の種痘義務化などの種痘法を公布。
15(木)●東京の芝・京橋両区間に土橋が完成し開通式。
16(金)●金沢の第三五連隊で清国派遣の見習将校が重要書類を盗み検束される。
17(土)●水雷団条例公示。各軍港に水雷団を設置する。
18(日)●一~三月に東京市内で人を噛んだ犬八二四、被害者一二九人、と新聞に。
19(月)●東海道線六郷川鉄橋上で列車衝突、死者数人。
20(火)●東京の八十四銀行、京橋銀行を吸収合併。
21(水)●農商務省、鉱毒調査会設置。
22(木)●新潟県沖で汽船が衝突・沈没、一八人死亡。
23(金)●旧日本鉄道の最終株主総会。買収公債は五〇円株に一二〇〇円余の高配当。
24(土)●高峰譲吉、タカジアスターゼの特許を取得。
25(日)●福岡県の三池港が開港。
●北海道・小樽で大火、七二〇戸余焼失。
26(月)●トルコ国民議会、アブドゥル・ハミト二世の退位を決議、モハメッド五世をスルタンに選出。
27(火)●役人・教師にモーニング着用者急増と新聞に。
28(水)●三国同盟諸国がブルガリアの独立を承認。
29(木)●大阪市債三〇八万ポンド余をロンドンで発行。
30(金)●静岡県で鰹大漁、漁獲高三〇〇万円と新聞に。

Popperfoto/ユニフォト・プレス

▲**ツェッペリン飛行船が滞空飛行記録を達成(5月31日)**「LZ1号」が1000キロを飛び、滞空時間38時間の記録を樹立。飛行船事業化への道を開き、10月にはドイツ飛行船航空社が設立された。

▶**ニジンスキー、パリ初公演(5月19日)**ディアギレフ主宰のロシア・バレエ団の一員として、シャトレ座に出演。観衆の熱狂的な支持を受けた。写真は、パブロワ(右)と共演した「アルミードの館」。

▶**横須賀の繁華街焼失(5月23日)**午後2時近く、若松町の商店から出火。強風下、火はたちまち大滝町へ延焼し、郵便局、憲兵分隊、銀行などを含め約600戸を全焼して、やっと鎮火。

「写真タイムス」

「野球歴史写真帖」

◀**慶大、日本初の三重殺(5月23日)**東京・三田球場の対一高戦で、無死満塁のピンチに左翼ライナー。タッチアップのランナーを、本塁で刺し、2塁走者も3塁でアウト。慶大が7対2で大勝。

▼**ジュール・ベルヌ碑、建立(5月9日)**『八十日間世界一周』などで著名なSF作家の胸像が、4年前に死ぬまで35年間住み続けた、パリ北方のアミアンに完成。

「イリュストラシオン」

◀**欧亜連絡運輸会議開催(5月)**韓国、満州(中国東北部)、シベリアを経て、日本と欧州をつなぐ、壮大なプランの実現をめざした。東京・麻布の満鉄社宅で、中央が後藤新平鉄道院総裁。

明治42年5月

1(土)●文化団体の文芸協会が付属演劇研究所を設立。
2(日)●東洋漁業・長崎捕鯨・大日本捕鯨・帝国水産が合併し東洋捕鯨を設立(後、共同漁業に合併)。
3(月)●長野県辰野で運搬人組合の人夫五〇〇人が運送業者の運賃値下げに反対してストライキ。
4(火)●東京地裁で春画出版販売の公判開始、荷車三台分の証拠春画画版木が法廷に山積みとなる。
5(水)●ペルシャのシャーが憲法を承認する。
6(木)●新聞紙条例を廃し、新聞紙法公布・即日施行。内相に発売頒布禁止の行政処分権を与える。
7(金)●老舗タバコ商の柳屋をタバコ密造で検束。
8(土)●名古屋市、外債八〇万ポンドをロンドンで発行。
9(日)●東京監獄の女性囚は一三二人、と新聞に。
10(月)●ハワイ・オアフ島の日本人農業労働者約二〇〇〇人が賃上げ要求スト。
●露・清間に東支鉄道の管理に関する協定成立。
11(火)●東京高商専攻部廃止に反対の生徒が、同盟退学を決議(6月、四年間の存続決定)。
12(水)●前橋市農会が雀捕獲に報奨金、と新聞に。
13(木)●横浜で銭湯の女湯に動物園脱走の猿が乱入。
14(金)●仏下院が公務員にスト権を与える法案を否決。
15(土)●「大阪朝日新聞」が新聞紙法批判。
16(日)●合名会社・竹中工務店、設立。
17(月)●関東・東北に暴風雨、家屋倒壊など被害甚大。
18(火)●千葉県鴨川町の漁船二隻の乱闘で一四人勾引。
19(水)●ディアギレフ主宰のロシア・バレエ団がパリのシャトレ座で初公演(ニジンスキー出演)。
20(木)●三重県の鳥羽商船学校で教諭排斥の同盟休校。
21(金)●広島県筒賀村共有林の火事、三〇〇町歩延焼。
22(土)●浜名湖で密漁船六〇隻と地元漁民が衝突。
23(日)●横須賀市で大火、約六〇〇戸が全焼。
24(月)●官金を着服した札幌警察署巡査を逮捕。
25(火)●英議会、インド参事会条令を可決。宗教別分離選挙制を採用(モーリー・ミント改革)。
●管野スガ・幸徳秋水ら「自由思想」を創刊。
26(水)●長崎の三菱造船所電気工場から出火、工場は半焼ながら高価な発電機などを焼失。
27(木)●海軍省構内に西郷従道ら三海将の銅像が完成。
28(金)●焼岳噴火、長野県安曇野一帯に降灰。
29(土)●国際新聞協会、東京・帝国ホテルで発会式。
30(日)●塩務局の官吏と塩商が結託し、一年間に二〇万円を詐取した函館疑獄事件が起こる。
31(月)●ツェッペリンが飛行船で約三八時間、一〇〇〇キロの滞空飛行記録を樹立。

▲仕立屋銀次、捕まる(6月23日)多くの子分を抱えた、列車内専門のスリの大親分が、ついに自宅でお縄に。東京・赤坂署に押収された盗品2万余点と銀次。「写真タイムス」(2点とも)

毎日新聞社

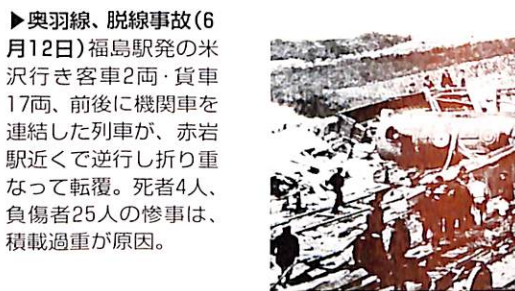
▲新韓国統監に曾禰荒助(6月14日)3年半にわたる初代統監・伊藤博文の辞任で、副統監から昇格。68歳。韓国併合を急ぐのには消極的だったが、病気のため翌年5月に辞任。

▼アラスカ・ユーコン太平洋博覧会、開く(6月1日)アラスカとの中継都市だったシアトルで開催。タフト大統領が官邸でボタンを押して開幕、会場は大盛況。写真は日本出品館。

「写真タイムス」

▼東京・両国の国技館、開館式(6月2日)辰野金吾設計の巨大な鉄傘ドームが、回向院境内に誕生。角力協会委員長・板垣退助、各国大公使ら1万人余が祝典に出席。

毎日新聞社

▲「ロシアパン」大流行(6月)東京・牛込のジャツパン商会が、樺太から連れて来て製法を学んだロシア人に行商させたところ、頓狂な売り声と甘い味が大好評。「風俗画報」

▶奥羽線、脱線事故(6月12日)福島駅発の米沢行き客車2両・貨車17両、前後に機関車を連結した列車が、赤岩駅近くで逆行し折り重なって転覆。死者4人、負傷者25人の惨事は、積載過重が原因。

「写真タイムス」

明治42年6月

1(火)●黒人運動推進の全米黒人委員会(NNC)結成。
●初の米大陸横断自転車レースがニューヨークをスタート(22日、シアトルにゴールイン)。
2(水)●東京・両国の国技館、開館式。
3(木)●関東の春蚕は順調で一割増収見こみと新聞に。
4(金)●京都帝大医科大学の医化学研究所を焼失。
5(土)●三菱造船所、受注閑散のため半休制度を実施。
6(日)●清国、英独仏三国借款団と湖広鉄道借款契約に調印(翌日、米国が契約参加を要求)。
●渋沢栄一、七〇歳を機に財界引退を表明。
7(月)●「大阪朝日」「毎日」「時事」の三紙、大阪地裁の記事掲載差止命令書を掲載し起訴される。
8(火)●鉄道院、電話での事故・異変通報試験を実施。
9(水)●宇都宮第五九連隊の兵一〇人、集団脱営。
10(木)●英の遭難船「スラボニア号」から初めて「SOS」が発信される。
●大日本麦酒、清涼飲料水「シトロン」を発売。
11(金)●東京の松屋呉服店がクーポン券発行と新聞に。
12(土)●奥羽線赤岩駅付近で脱線事故、四人死亡。
13(日)●全国のハンセン病患者は一〇万人余と新聞に。
14(月)●韓国統監・伊藤博文を枢密院議長に任命。
15(火)●蜜柑水業者は東京だけで約二〇〇、と新聞に。
16(水)●国技館入場者は一〇日間で九万人余と新聞に。
17(木)●東京府下の前月電車衝突事故六七件と新聞に。
18(金)●栃木鬼怒川流域の三ヵ村、水争いで村民対立。
19(土)●帝国学士院役員改選で菊池大麓が院長に当選。
20(日)●回向院住職ら家畜埋葬会社を設立、と新聞に。
21(月)●九州鉄道管理局、駅員六〇人を整理・解雇。
22(火)●閣議、安奉鉄道改築・吉長鉄道借款細目決定。
●露国人販売のロシアパンが大人気、と新聞に。
23(水)●英・ケンブリッジにダーウィン博物館、開館。
●スリの親分・仕立屋銀次、逮捕。
24(木)●鉄道院、職員中央教習所規定を制定。
25(金)●片倉組の今井五介、官民実業懇話会で蚕種統一を説き、長野・群馬で統一運動始まる。
26(土)●田原良純がフグの毒素を抽出し、テトロドトキシンと命名。
27(日)●夏目漱石、「それから」連載開始(「朝日新聞」)。
28(月)●鉄道院が三浦半島まわり、豆州温泉まわり、富士登山などの回遊券を発売、と新聞に。
29(火)●東京帝大法科大学に商業学科を設置。
30(水)●京都市、疏水工事資金に仏の二銀行と市債四五〇〇万フランの引き受け発行契約を締結。
●京成電気軌道、設立。

「現場」を歩く 元赤坂
技術の粋を集めた東宮御所が迎賓館に変貌するまで

山本徹美

▲中央階段。床にはイタリア産の大理石が張られ、その上に赤じゅうたんが敷きつめられている。左右の壁に鏡張りされている大理石はフランス製。この階段を上がると、大ホールがある。 但馬一憲

明治四二年六月、東京・元赤坂に洋風の東宮御所(赤坂離宮)が完成した。御所の建つ元赤坂の土地約一〇三万平方メートルは、紀州徳川家から明治五年二月に献納され、翌三月、赤坂離宮と命名された。

同三一年、東宮(皇太子)御所建造の気運が起こり、宮内省に東宮御所御造営局を設置。翌三二年八月の起工以来一〇年を経て、ようやく完成したのである。

「構造ハ石造ノ三層ヨリ成リ、専ラ震災予防ノ目的ヲ以テ、壁中ニハ縦横ニ鉄骨ヲ入レ、床モ亦同シク鉄材ヲ用ヒタル耐火構造」(『東宮御所御造営誌』)

総工費は五一〇万五五七二円六〇銭八厘。建設の総指揮をとった片山東熊は工部大学校(現・東京大学工学部)第一期卒業生で、御所造営にあたって事前に数回、欧米を視察、建築中も総計二年半にわたって欧米出張。ベルサイユ宮殿やルーブル宮殿、バッキンガム宮殿などを参考にして、ネオ・バロック様式を採用する。本館は地上二階、地下一階、延べ面積約一万五三六〇平方メートル、延べ床面積五一七〇平方メートル。

完成したものの、東宮明宮(後の大正天皇)はここをほとんど利用しなかった。一説には明治天皇が贅沢すぎる、と居住に反対したためと伝えられる。東宮御所として機能した期間は、今上天皇まで三代で合計五年六ヵ月にすぎない。

「国宝、重文」級の数々

豪華絢爛たる東宮御所であったが、歴代東宮はなぜか敬遠し、東京大空襲で戦災に遭うなど、荒廃が進んだ。昭和二一年六月以降は無人の館と化し、同二三年、皇室は東宮御所の土地と建物を国に移管する。庁舎不足に悩んでいた政府は、ここを国会図書館や法務省など計八機関に提供した。同三八年、国の迎賓施設を建設する方針が立てられ、同四二年、東宮御所を改修して迎賓館に、と閣議決定。同四九年三月、迎賓館が竣工した。総経費一〇四億円。

迎賓館を訪ねてみた。

「国賓、公賓の接遇が主ですが、国宝、重文級の調度品や絵画もあり、その維持管理も重要な仕事です」(古田裕繁次長)

館内に入る。白い壁に金の装飾がまぶしい。訊くと、すべて純金だそうである。二階には「朝日」「彩鸞」「花鳥」「羽衣」と四つの大広間があり、「朝日の間」は、天皇・皇后が国賓を迎える部屋として知られている。家具は建設当初、フランスから輸入されたものだが、内装はすべて日本人の職人・芸術家の手による。この部屋においてある磁器の壺だけでも数億円。同様に、ほかの部屋も数多くの「宝」で意匠が凝らされている。

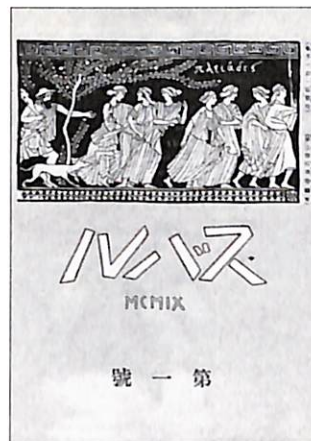
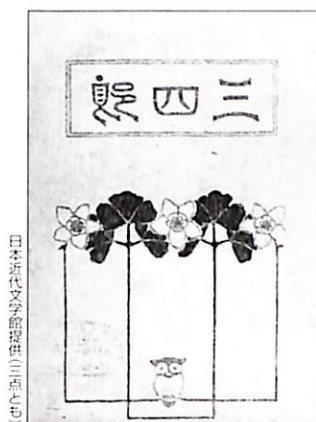
こんな部屋に泊まる気分はどんなものだろうか。私にはあまりにもきらびやかで、安眠できそうにないように思えるのだが。

▲完成直後の外観。現在もほとんど変わっていない。日本人スタッフのみで造りあげた、初の洋風宮殿である。

ベストセラー
鷗外、啄木、白秋らが集う文芸雑誌「スバル」創刊！

この年の一月に、森鷗外を中心に据えた文芸雑誌「スバル」が創刊された。

発行人は石川啄木で、創刊号には鷗外の戯曲「プルムウラ」をはじめ、散文では、啄木や木下杢太郎、小山内薫、阿部次郎ら、詩歌では、蒲原有明、北原白秋、上田敏、与謝野晶子、吉井勇らが名をつらねた。自然主義に対する耽美派の文芸誌として注目されたが、巻頭には次のように記されていた。「我々は決して一定の主義若くは簡単な動機の下に相集つた訳ではない、が何かの趣味、その思想、またはその境遇に於て相通ずる所があつたのに違ひない。であるから吾々は相互に深く干渉し、若くは統一を強ふるがごときことはしない」と。

この「スバル」にも参加した北原白秋は、三月に詩集『邪宗門』を上梓している。その本文第一ページに「邪宗門扉銘」と題して「ここ過ぎて曲節の悩みのむれに、／ここ過ぎて官能の愉楽のそのに、／ここ過ぎて神経のにがき魔睡に」と書き、さらに序文では「我らは神秘を尚び、夢幻を歓び、そが腐爛したる頽唐の紅を慕ふ。哀れ、我ら近代邪宗門の徒が夢寐にも忘れ難きは青白き月光のもとに欷歔く大理石の嗟嘆也。暗紅にうち濁りたる埃及の濃霧に苦しめるスフィンクスの瞳也。……」と、官能的な世界への傾倒ぶりを鮮明に打ち出した。

またこの年五月、夏目漱石の名作『三四郎』が刊行された。熊本から上京してきた大学生・三四郎の、純真な目に映った大都会の様子や、大学周辺の人々が生き生きと描かれた青春小説だった。作者の分身とも思われる広田先生のほか、謎めいたところのある美女・美祢子、同郷の先輩・野々宮などが、若い三四郎を驚かせたり動揺させたりしながら、その新鮮な目を開かせていく。漱石ならではの、ユーモラスで知的な語り口をたっぷり楽しむことのできる物語でもあった。

▲「スバル」創刊号（昴発行所、30銭）

▲『三四郎』（春陽堂、1円30銭）

日本近代文学館提供（三点とも）

◀『邪宗門』（易風社、1円）

スターと名場面
小山内薫・左団次の「新劇」リアリズムが受け大成功！

この年一一月、小山内薫が洋行帰りの二代目市川左団次とともに、劇場を持たない劇団「自由劇場」を打ち立て、有楽座で初公演を行った。小山内薫の演出コンセプトで注目されたのは「素人をプロにするのではなく、プロを素人にする」というものだった。旧劇（歌舞伎）で身につけた演技をすべて脱ぎ捨て、脚本に忠実な演技を求めたのである。

その初公演の演し物は、イプセン作・森林太郎（鷗外）訳の「ジョン・ガブリエル・ボルクマン」で、役者の演技ばかりでなく画家・岡田三郎助らの舞台装置もリアルで、定員九〇〇人の劇場を満杯にした観客は、初めて見るこの「新劇」におしみない拍手を送った。小山内薫らの試みは大成功をおさめたのである。

一方、映画の方では、この年頃から急激に製作本数がふえていった。中でも吉沢商店は、明治四一年に東京・目黒に建てた撮影所をフル稼動させた。この撮影所は、七二〇平方メートルの広さを持つ総ガラス張りの斬新な建物だった。電気の供給が不十分な時代だったから、自然光をできるだけ取り入れて撮影しなくてはならなかったのである。電気不足は、「出写し」と称するロケ撮影をも増加させた。それだけ撮影には困難が多かったが、映画という新しいメディアに対する熱意が、次々と作品を生み出していった。

▲吉沢商店で撮影された「ハイカラ」の一シーン。

▲「自由劇場」の記念すべき第1作の一場面。右が、ボルクマンを演じる2代目市川左団次。

▶この年にはさかんに製作を始めていたM・パテー商会の「壺坂霊験記」。

モノ語り'09
“品質向上”で広く普及！ 清涼飲料水「シトロン」 懐中時計「エンパイヤ」 二号共電式壁掛電話

▲いよいよ電話機が全国的に普及方向へ　明治36年の京都に続いて、この年には東京・大阪・名古屋で共電式が採用され、写真の「二号共電式壁掛電話」が広く普及するにいたった。当初、共電式電話機は湿気による絶縁低下の問題を抱えていたが、この頃にはエナメル線などの開発によってその問題もクリア、普及機としての要件を備えていった。
逓信総合博物館提供

▲ちょっとした用に使われた照明具　幕末から輸入されていた石油ランプだが、この頃には国産化が進み、日本の生活様式に合わせた、さまざまな種類のものが作られるようになっていた。写真の「豆ランプ」もそのひとつ。これは明治45年に使われていたものだが、42年にも同じようなものはすでに作られていた。高さ15センチの小さなもので、風呂場やトイレなどでのちょっとした照明具として重宝がられていた。
日本のあかり博物館蔵／江頭徹

▶使い勝手のよい蛇腹式ハンドカメラ　この年、小西本店（現・コニカ）から発売された「パール手提暗函」は蛇腹式ハンドカメラの傑作で、ロールフィルムと手札判の乾板を兼用できる国産カメラだった。レンズとシャッターの組み合わせにより、数種類のバージョンがあった。レンズ部分には上下、左右のアオリ機構も備わっていた。
日本カメラ博物館蔵／大畑俊男

▲画期的な清涼飲料水が生まれた　この年、大日本麦酒株式会社（現・サッポロビール）が清涼飲料水「シトロン」を発売した。当時出まわっていた低品質の“清涼飲料水”と一線を画そうと、ヨーロッパで愛飲されていたリモナーデ（レモン水）を手本に開発したもの。レモンに似たヒマラヤ原産の柑橘類の名をとった「シトロン」は、高い評価を得たが、価格も1本10銭と当時としては破格のものだった。

▶大型オルゴールが輸入されていた　ディスクタイプのオルゴールを最初に製造したドイツのシンフォニオン社が世紀末に作った「エロイカ」は、3枚のディスクを同時にまわして複雑なメロディーを奏でる高級オルゴールで、この頃、日本にも輸入されていた。蓄音機の普及に対抗して、このような新機軸が打ち出された。
那須オルゴール美術館提供

▲国産懐中時計のロングセラー　この年、精工舎（現・セイコー）から発売された十六型懐中時計「エンパイヤ」は、明治から大正・昭和にかけて、精工舎製懐中時計の中でも最も普及した名機だった。精工舎では、明治41年に“ピニオン自動旋盤機”を開発、工程の短縮と量産を可能にしたが、この新戦力を駆使して世に送り出したのが「エンパイヤ」だったのである。　セイコー時計資料館蔵　田代貞一

超複雑なオルゴール

20世紀に入って蓄音機が普及するとともに、衰微していったオルゴールの世界に、新たにオルゴールならではの楽しさを追求した機種が生まれてきた。「エロイカ」もそのひとつだが、写真の「オーケストリオン」のような、自動演奏機としてのイメージを膨らませたオルゴールも作られるようになった。これは1920年製で、「ジャズバンド」というニックネームがつけられていた。

蓄音機が、より忠実なサウンドの再生を目的として、性能を向上させていったのに対して、オルゴールは、独特の音色を奏でる自動演奏機であることを再認識するところから、新たな発展を試みていたのである

那須オルゴール美術館提供

人物クローズアップ

賀川豊彦(二一)

クリスマス・イブの日に貧民救済の新生活開始！

明治四二年一二月二四日、神戸神学校の学生・賀川豊彦は、神戸市葺合新川（現・中央区）の当時「貧民窟」と呼ばれていた一角に移り住み、貧民救済のため、単身新しい生活を始めることになった。賀川二一歳、クリスマス・イブの日のことである。

前年の神戸市の調査によると、この地域の戸数は一六九一戸、人口六五七四人。各地から仕事を求めて集まった人たちの一大スラム街で、住宅事情は言語に絶するすさまじさ。特にすごいのが二畳敷き長屋で、一戸が一坪半ほどしかない棟割長屋が鈴なりにつらなり、その二畳敷きに一家九人が住んでいることもあった。賀川もそれには、「金持ちの家に飼われている犬は、ここの住人よりはるかに幸福な生活を送っている」と述べたほどである。

賀川が落ち着いた家は、五畳敷きの一部屋。すでにこの年の九月から「貧民窟」に入り、路傍で説教活動を行っていたが、それだけでは満足できず、ここの住人とともに生きることを決意して、空き家があったのを幸いに移り住んだのである。

賀川豊彦は、明治二一年七月一〇日、神戸市兵庫島上町（現・兵庫区）に生まれた。父・純一は回漕店をいとなむ実業家だったが、四歳の時に急逝。母もそれを追うようにして亡くなった。五人の子どもたちはそれぞれ分かれて親戚に引き取られ、賀川も徳島県阿波の父の実家に移る。

賀川には、子どもの頃から悩みがつきまとった。幼い時には母が本妻でないことをからかわれ、それが心に深い傷を残した。さらに、県立徳島中学校（現・城南高校）に入学した翌年、当時不治の病だった肺結核に罹患。そして一五歳の時、兄の放蕩から一家が傾き、賀川家は破産した。

賀川がキリスト教の洗礼を受けたのは明治三七年、一六歳の時である。三八年、徳島中学卒業と同時に明治学院高等部神学予科に入学。三九年には、予科を終えて神戸神学校に転校する。

明治学院在学中から、賀川の健康はすぐれなかった。死線をさ迷い、絶望の淵に沈みながら悟ったのが次のことだった。

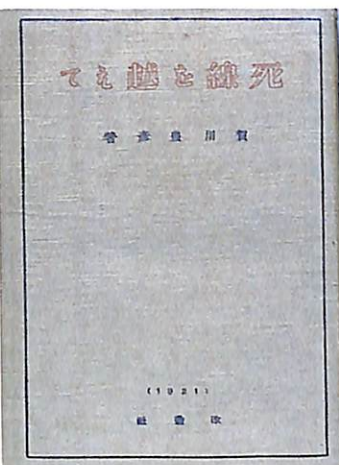
「神が自らの位を棄て、、ナザレの労働者イエスとして、人間生活へはひりこんだと言ふのならば、われわれが貧民窟へはひつて生活する位は何でもないことである」（『イエスの宗教とその真理』）

「貧民窟」に入って二年ほどたった頃、不思議なことに賀川の肺結核が癒えていった。活動は救霊団という小さな「家の教会」を中心にしたキリスト教の伝道と、病人の面倒を見たり、戸籍届の代書をしたりするといった、あらゆる意味での救済活動だった。その賀川を一躍有名にしたのが、大正九年に発刊されてベストセラーになった、自伝的小説『死線を越えて』である。

賀川が社会に与えた影響について、宗教思想史家の笠原芳光氏は次のように語る。

「当時の若いインテリ層は、トルストイの人道主義に感銘を受けていましたが、『死線を越えて』によって日本にもそのような人がいることを知り、驚きました。それが現代のボランティア活動に、伏流として流れているのかもしれません」

その後の賀川の活動は、部落解放運動、労働運動、農民解放運動、生協運動などに拡大、運動の理念や方法などで先駆的な役割をはたしていく。

結核で余命いくばくもないとされていた賀川は、この年から五〇年余りを生き続け、昭和三五年、七二歳で亡くなった。

▲『死線を越えて』（改造社）。印税収入により一層幅広い運動を展開した。

▼子どもたちと。この近くに賀川（左から二人目）が経営する「イエス団友愛救済所」があった。

賀川豊彦記念・松沢資料館提供（三点とも）

▲大正2年にハル（左）と結婚した賀川は、翌3年、神学や心理学などを学ぶため、アメリカへ留学する。写真は結婚直後のもの。

決定的瞬間

誇りを守ったアパッチの勇者「赤い悪魔」ジェロニモの屈辱の後半生が終わった日

カメラを見据える〝アパッチ族の勇者〟ジェロニモの表情は厳しい。頭には鷹の羽をつけたウォー・ボンネット（闘いの帽子）をかぶり、戦士としての威厳を備えている。しかし、よく見ると、この写真はスタジオで撮影したもののようだ。彼はその二五年近い後半生を戦争捕虜としてすごし、観光客に写真を撮らせて金を稼いでいたのである。

ジェロニモは、一八二九年に米国のニューメキシコ州で生まれた。アパッチ族は当時約二万人いたと推定され、ジェロニモはその中のチリカワ・バンドという一〇〇〇人ほどのグループに属していた。

彼の本名はゴヤスレイ（欠伸をする人）というのどかな名前であったが、その闘いぶりのすさまじさから、「獅子のように闘う聖者ジェロームのようだ」とメキシコ兵におそれられ、「ジェロニモ」と呼ばれるようになった。彼がこのように戦闘的になったのは、二〇歳頃、メキシコのチワワ州に馬と毛皮の交易に出かけた際に、メキシコ兵にキャンプを襲われ、母親、妻、三人の子どもを失ったことに端を発している。キャンプを焼かれ、すべてを失った彼は、一週間歩き続けてアリゾナに帰り、メキシコ兵に復讐を誓ったという。この事件以来、ゴヤスレイはたびたびメキシコ兵を襲った。

ジェロニモは米国のアリゾナ、ニューメキシコ、そしてメキシコ一帯で行動していたが、白人との闘争史から言うと、すでに〝最末期〟にいたっていた。白人の入植で土地を失い、同じく白人が持ちこんだ結核、梅毒、天然痘などの病気に襲われ、辺境に強制移住させられ、保留地では過酷な自然条件と劣悪な食糧事情でさらに多くの人々が死んだ。一六世紀には一〇〇万人いたネイティブ・アメリカンは、一九世紀末には約一〇万人に減少するという壊滅的な状態だった。

一八七二年には、彼もアリゾナ州のチリカワ保留地に住むようになる。ところが、四年後には、より条件の悪い保留地に移動を求められ、「俺は白人の部下ではない。自分が行きたいところに行く時、何で奴らの許可を求めなければならないのか」と、約一〇〇人の仲間と逃走。以後、少数の仲間とともに保留地から逃走しては連れ戻されるということを繰り返している。彼が殺されなかったのは、白人を簡単に信用せず、機を見るに敏であったからだ。しかし、一八八六年三月にはクルック将軍の追撃を受け、同年九月メキシコ山中で、ジェロニモたち三六人は、マイルズ准将率いる五〇〇〇人の兵士に包囲され、ついに降伏する。この時、ジェロニモ五七歳。

オクラホマの新聞は「彼がまとっていた毛布は、彼が殺した白人の毛髪で編まれていた」と報じている。これは事実ではないが、白人がいかにジェロニモをおそれていたか、よくわかる。

晩年をすごしたオクラホマ州のシル砦での日常生活は、野菜を作り、土産物用の弓矢を削り、それを売って小遣いを稼ぐというつましいものであった。

一九〇九年二月一一日、ジェロニモは三〇キロ離れた隣町まで弓矢を売りに行き、帰りにウイスキーを飲み、泥酔して馬から落ちた。折からの雨で体は冷えこみ、風邪に肺炎を併発。六日後の二月一七日、「赤い悪魔」とおそれられたジェロニモは、あっけなく死亡する。七九歳だった。

▲ネイティブ・アメリカン保留地の土地と資源に目をつけた白人は、保留地そのものを解体しようとした。 CORBIS-BETTMANN PPS（2点とも）

▲ジェロニモの死により、西部開拓の時代は終わったと言える。アパッチ族の墓地に埋葬された遺体は、ひそかに掘り起こされ、西部のどこかに移されたという伝説が今も残る。

美の出会い

バーナード・リーチ来日! 富本憲吉や浜田庄司らと近代陶芸の道を切り開く

▶昭和9年、栃木県益子町の浜田庄司(右)の窯で、初めて窯出しをするリーチ。

イギリス人画家、バーナード・リーチ（二二）が、明治四二年四月に来日した。ロンドン美術学校で銅版画を学んでいた頃、『怪談』で知られるラフカディオ・ハーンの著作を愛読して強い憧れを抱くようになった日本は、リーチにとっては、実は生まれてから三歳までをすごした国でもある。折しも同校に留学していた彫刻家の高村光太郎（二六）と知りあい、彼からの美術史家・岩村透や彫刻家・高村光雲（光太郎の父）にあてた紹介状を手に来日。日本で銅版画を教えて生活費を得ようと、プレス機を持参した。

東京に着いたリーチは、岩村の世話で日暮里の借家に住み、その秋にはみずから設計した上野桜木町の新居に移る。九月のある雨の夜、このアトリエに武者小路実篤（二四）、志賀直哉（二六）、柳宗悦（二〇）ら十五、六人の若者が集まり、リーチから銅版画の歴史を聞き、またその実演を見せてもらった。彼らは、翌四三年に文芸誌「白樺」を創刊する同人たちである。この中から児島喜久雄（二二）と里見弴（二一）がリーチに弟子入りし、後には岸田劉生が加わった。

この日集まった若者たちを前に、リーチは教えるよりも、むしろ学ぶことの方が多いことに気づいた。この後、一〇年間にわたるリーチの日本滞在は、白樺派の同人やそこにつらなる画家たち、工芸家たちと、互いに感化しあい励ましあう貴重な時期となり、特にリーチにとっては、生涯を決定する大きな出会いの場ともなった。中でもリーチの純粋で真面目な人柄にひかれた柳宗悦は、最も親しい友人として、物心両面からリーチを支えることになる。

日本民藝館の学芸員・尾久彰三氏は、こうした若者たちの国境を越えた交流を「大正デモクラシーという時代背景をもとにした幸運な出会いだった」と言う。「学習院や東京大学で学んだ白樺派のメンバーは、英・仏・独語などに通じていて、西洋思想も吸収していました。一方、リーチは父親から東洋思想を学んでおり、若い二〇代の彼らが出会い、語りあうことで、後に生み出す芸術の基礎を身に↖

◀「楽焼筒描柏文盒子(らくやきつつびょうはくもんごうし)」。8.7×10.9×10.9センチ。柏はイギリスの「国樹」で、リーチはその葉の図案を好んだ。 日本民藝館

▶「自画像」。エッチング、19.9×14.9センチ。リーチは自著『回顧』の口絵に、この厳しい表情の自画像を使った。 日本民藝館

▶「染付紋章文注瓶」。23.7×16.5×16.5センチ。ヨーロッパの紋章がモチーフ。大正3年の作品で、この年10月、リーチは初の個展を開く。
大原美術館

つけていったのでしょう」

リーチを取り巻く若者の中でも、彼に決定的な影響を与えたのは、富本憲吉、浜田庄司、河井寛次郎らの陶芸家たちである。そもそも、若き銅版画家のリーチが陶芸の道に入ったのは、明治四四年二月に開かれた画報社主催の茶会で、余興に行われた楽焼に惹かれたのが契機だと言われる。翌四五年、画家の石井柏亭の紹介で東京・入谷に住む六世尾形乾山を訪ねる。通訳にはイギリス留学から帰ったばかりの富本憲吉（当時・二五歳）が同行。リーチはその場で乾山に入門することを決意、富本もまもなく入門し、ともに陶芸の道を歩むことになる。後に乾山の窯を譲り受けたリーチは、千葉県・我孫子の柳宗悦の自宅の庭に窯を設置し、作陶に打ちこんでいく。

東京高等工業学校生の河井寛次郎（当時・二一歳）は、明治四五年二月に開かれた「白樺」主催第四回美術展でリーチの作品を見て、特に絵付けの斬新さに感銘を受ける。「先を越された」という思いで、さっそくリーチを訪ね、交友を結んだ。

河井を通じてリーチに紹介された浜田庄司（当時・二五歳）は、大正九年、リーチが帰国する際に同行し、コーンウォル半島の小さな町、セント・アイヴズに登り窯を築き、ここで三年間、ともに作陶を続ける。こうして強い友情に結ばれた四人の天才的な陶工は、柳の推進する民芸運動の草創期に、新しい美意識を持った近代陶芸の道を切り開いていった。

リーチについて膨大な著述を残している柳は、「私の知れるリーチ」というエッセイに、次の一文を載せている。

「彼を知る多くの友達は、彼がハーン以後、日本の内面を理解し得た唯一の外国の芸術家だと云ふ私の意見に、必ずや一致することと思ふ。ハーンが古い日本に温く活きたのに対して、新しい日本に親しい心を味つたのはリーチであつた」

しかしリーチの作品は、イギリスで評価はされても買い手は少なかった。こうしたリーチの作品を評価し、滞日中も帰国後も販売に努力したのが柳である。その後もリーチは西洋と東洋を結ぶ絆となって創作活動を続ける。ヨーロッパや北米など世界各地で個展や講演を行い、多くの陶工たちに影響を与え、「リーチ派」と呼ばれる陶芸世界を創出していった。

▶「白樺」大正二年三月号表紙。木版画。イギリスの詩人・ブレイクの詩の一節を描いたもの。
調布市武者小路実篤記念館

20世紀博物館

京菓子資料館 京都市

「菓子の心意気」を伝える気持ちこそが食べるものの五感を満足させる

桑原茂夫

石井美雄

京都は烏丸通の、御所からそれほど離れていないところに、京菓子の老舗「俵屋吉富」があり、その三階に「京菓子資料館」がある。店の前には「ギルドハウス京菓子」という看板があり、それが目印になっている。「ギルドハウス京菓子」というのは、この資料館を開設・運営するために設けられた財団法人の名前なのである。

財団の責任者で資料館の館長でもある石原義正さんは、また、「俵屋吉富」の経営者でもあり、京菓子作りの伝統を受け継ぐベテランの菓子職人で、ハイレベルな名匠でもある。

義正さんのお父さんの石原留治郎さんが、昭和五四年に叙勲したのをきっかけとして、菓子作りの伝統的な技術を伝えていこうという動きが生まれ、昭和六〇年に「ギルドハウス京菓子」として結実した。

この資料館には、遠い昔、遣唐使がもたらした、和菓子のルーツとされる唐菓子の複製品や、江戸時代の菓子製作に用いられていた木型、螺鈿をほどこされた容器の行器、蒔絵入りの重箱、職人の様子を描いた絵巻など、和菓子作りの歴史をたどる貴重品の数々のほか、驚くべきお菓子が展示されている。

それは「糖芸菓子」という名を持つ、工芸品としての菓子である。季節感豊かな自然の風物を和菓子の素材で作りあげた工芸品で、もともとは工芸菓子と言われていたものだ。砂糖と粉をたくさん使うものだけに、戦争の時代には作れなかったが、昭和二八年、留治郎さんがベテラン職人の協力を得て製作、全国菓子博覧会に出品し世間を驚かせた。

季節感の表現が生命とも言える和菓子の世界において、それをとことん追求した、究極の和菓子なのである。

そのような究極の和菓子を作りあげてしまうほどの高度な技術が、普段の菓子作りに生かされるというのだから、京菓子の世界は実に奥深い。

義正さんは言う。京菓子は季節感を食するものであり、食べる人の五感を満足させる食べ物であると。そして、客に対する亭主のもてなしの気持ちを表すことでもあると。菓子といえども大変に大きな役割を担っているわけだが、これを「菓子の心意気」と表現してくれた。心意気のない菓子は、菓子とは言えないのである。

その「菓子の心意気」が実はこの「ギルドハウス京菓子」を開設させ、「京菓子資料館」を、入場料無料で維持管理させていると言うこともできる。

京菓子を求めて来店し、奥にある茶室で選んだ菓子を五感で楽しみ、資料館でその伝統的で高度な技術の一端に触れる。広さ一五〇平方メートルたらずと小ぶりながら、まことに生き生きとしたミュージアムなのである。

▶糖芸菓子の代表的なひとつ。京都では「菓匠」という菓子職人の最高の称号があるが、これは糖芸菓子を作れる職人にだけ与えられる。それほど高度な技術が、必要とされているのである。

▼明治時代の職人が、秘伝を手中におさめようとしたのだろうと推測されている、大ざっぱなスケッチと走り書きによる簡単なメモ。

▲和菓子のルーツとされる唐菓子八種。遣唐使が伝えた。梅枝(ばいし)、桃枝(とうし)、桂心(けいしん)などである。

●京菓子資料館
京都市上京区烏丸通上立売上ル
☎〇七五—四三二—三一〇一
地下鉄今出川駅下車、徒歩三分
開館時間＝一〇時～一七時
休館日＝水曜日、年末年始
入館料＝無料

▶「ギルドハウス京菓子」の看板が出ている和菓子屋さん「俵屋吉富」の三階に、「京菓子資料館」がある。

“日本株式会社”の創設者は「経済道徳合一」をたくみにはたした

みずから出処進退を決定した稀有なトップ

渋沢栄一「引退宣言」の衝撃!

▲「引退宣言」直後の8月、渋沢栄一(中央)は、民間経済外交を推進するため、40人を超える財界人らを率いて、3カ月間アメリカ各地を歴訪した。 渋沢史料館提供

明治六年、日本で最初の銀行とされる第一国立銀行(現・第一勧業銀行)を設立した渋沢栄一は、二年後、頭取に就任。この時点から、めざましい活動を始めた。鉄道、紡績、鉄鋼、海運など、近代産業の基幹となる企業、五〇〇社余を矢継ぎばやに作りあげていったのである。名実ともに財界大御所の地位にあったその渋沢の突然の「引退宣言」は、経済界に大きな衝撃を与え、世間を驚かせた。

財界の大御所、古稀に決意「身を引いても心配はない」

明治四二年六月六日午前一〇時、渋沢栄一(六九)は「かねて、お話をしてあったことではないので、ちょっととっぴな感じをなさるかもしれません」と前おきして、本題を話し始めた。

「ご列席の皆様の各事業について、私がお仲間に入らなくても、もう心配はないと存じます。また、私は、七〇歳になり、限りなく、各種の事業に関係するというわけにも参りませぬ……」

その日は朝から雨が降り続いて、肌寒い感じだった。あいにくの天気の中、日本橋区(現・中央区)兜町の渋沢事務所に、午前九時頃から、財界首脳と目されている人たちが集まっていた。

東京瓦斯の高松豊吉(五六)、大日本麦酒の植村澄三郎(四八)、石川島造船所の梅浦清一(五六)などといった、いずれも各社の社長、重役をつとめる……人である。一同は渋沢のこの発言に茫然自失の態で、しばらくは声もなかった。

渋沢が古稀の七〇歳(数え年)を機に、

▲明治6年に渋沢が設立した日本初の銀行、第一国立銀行。「銀行」の概念自体、渋沢がヨーロッパから導入したものである。

実業界から、ほぼ全面的に引退するという衝撃的声明は、その日のうちに各方面に伝えられ、新聞記者がどっと押しかけた。渋沢は「私が今、身を引いても、それぞれの会社は困らないまでに整っている。経営面での心配はありません」と言って、関係するいくつかの会社を例にあげ、具体的な説明を繰り返した。

たとえば、渋沢は、自身が頭取をつとめる第一銀行（明治二九年九月、第一国立銀行を株式会社・第一銀行に改組）について「すでに、実務はすべて、佐々木富之助取締役総支配人以下のものにまかせているが、当行の堅固な営業ぶりは、誰の目にも申し分ないはず」と言い切っている。また、会長職にあった東京瓦斯に対しても「どこから見ても立派な会社である。私が辞任しても、経営が揺らぐようなことは断じてない」と述べた。

「引退声明」後、参集者との懇談を終えた渋沢は、関与していた五九社と、関係諸団体、学校一七へ辞任書を発送した。その中には、東京海上保険、日本郵船、日本興業銀行など、現在もよく知られている名前が並んでいる。

自身「論語と算盤」を実践 社会事業に専心した余生

健康には恵まれていた渋沢が、風邪をひきやすくなったのは明治三三年あたりからで、やがて、風邪をこじらせると、気管支喘息を起こすようになった。

かつて、つかえていた〝最後の将軍〟徳川慶喜（当時・六六歳）が東京・飛鳥山（現・北区西ケ原）の渋沢宅を見舞ったのは、明治三七年五月なかばのことである。渋沢は、慶喜が、みずから足を運んできたことに感激の面持ちで、「おかげさまにて、元気を取り戻せそうです」と、深々と頭を下げた。

同じ年の九月、箱根・芦之湯で約二カ月療養して、ひとまず回復した渋沢は、帰京後、医師団に「これまでのような激務では、再び、なんらかの障害を起こすおそれがある」と、仕事を半分に減らすよう、強く進言された。そこで、一一月、三〇社の役員と破産管財人、所得税調査委員長などの公職を辞した。

こういった前段があって、四二年六月の「引退」にいたったのである。渋沢のいさぎよい進退について、評論家の佐高信氏は「引退を自分で決めたということが大事な点でしょう。今は、政治家でも財界人でも、トップがそれを自分で決められない」と指摘する。さらに、事業家としての渋沢に言及して、佐高氏は次のように語る。

「渋沢は『修養団』という、みそぎ、研修の集団の後援会長をずっとつとめていました。この集団は、とにかく文句を言わずに働こうという考えを進めていた。渋沢は傘下の企業の社員に対して、そういう生き方でのぞんでいた。しかも、彼自身がそのことを実践している。最近は、自分がやらなくて、部下にだけ、それを要求するという経営者が多い」

大正五年、七七歳の喜寿を迎えた時、渋沢は完全に財界との関連を絶った。彼はその余生を社会公共事業にささげるが、かかわった社会事業の諸団体の数は六〇〇を超える。

福祉・慈善事業では終生、渋沢が院長をつとめた東京養育院をはじめ、中央社会事業協会、東京感化院、救世軍病院などの創設、運営にあずかった。また、教育にも意を用いた渋沢は東京女学館、日本女子大学の校長、東京高等商業（現・一橋大学）の講師をつとめるかたわら、大倉高等商業（現・東京経済大学）、岩倉鉄道学校（現・岩倉高校）など三十余校に援助を続けた。

さらに、明治三五年を最初として以降、四度、渡米している渋沢は、アメリカ朝野有力者に多数の友人を持ち、「グランド・オールド・マン」と親しまれた。そして、国際友好推進のため日米同志会、日露協会、日印協会、日仏協会、国際連盟協会などの役員も歴任した彼は、民間外交の先頭に立った人でもあった。

昭和六年一一月一一日、渋沢は直腸癌で死去する。享年九一であった。

渋沢の代表的な著作『論語と算盤』には、「正しい道徳の富でなければ、その富を永続することができぬ」というくだりがある。これが、いわゆる〝経済道徳合一説〟である。利益を追求するのが商売であっても、そこには、あくまでも道徳的なものが必要であるとするみずからの哲学を実践し続けた生涯であった。この『論語と算盤』は今も財界トップの愛読書になっているが、一体、何人がその真意を理解できているだろうか。

▲70歳の渋沢。彼は、経済人にモラルを求め続けた。

▲明治42年、アメリカ・ニュージャージー州のエジソン電話会社における訪米実業団。前列左から8人目渋沢。その右がエジソン。

▲大正15年、みずから設立した帝国ホテルに建てられた胸像前の渋沢（当時・86歳）。

▶日糖疑獄の21議員に有罪判決(7月3日)大日本精糖(日糖)幹部が、経営危機を"糖業官営"で乗り切ろうと、与党の政友会代議士らに贈賄。大企業と政治家との癒着が顕在化。

「写真タイムス」

毎日新聞社

▲大阪・キタで大火(7月31日)午前3時半、天満橋筋西側のメリヤス工場から出火、見る見るうちに燃え広がり、約1万4000戸を焼失して翌日午前5時、鎮火。写真は、避難民で埋めつくされた堂島川。

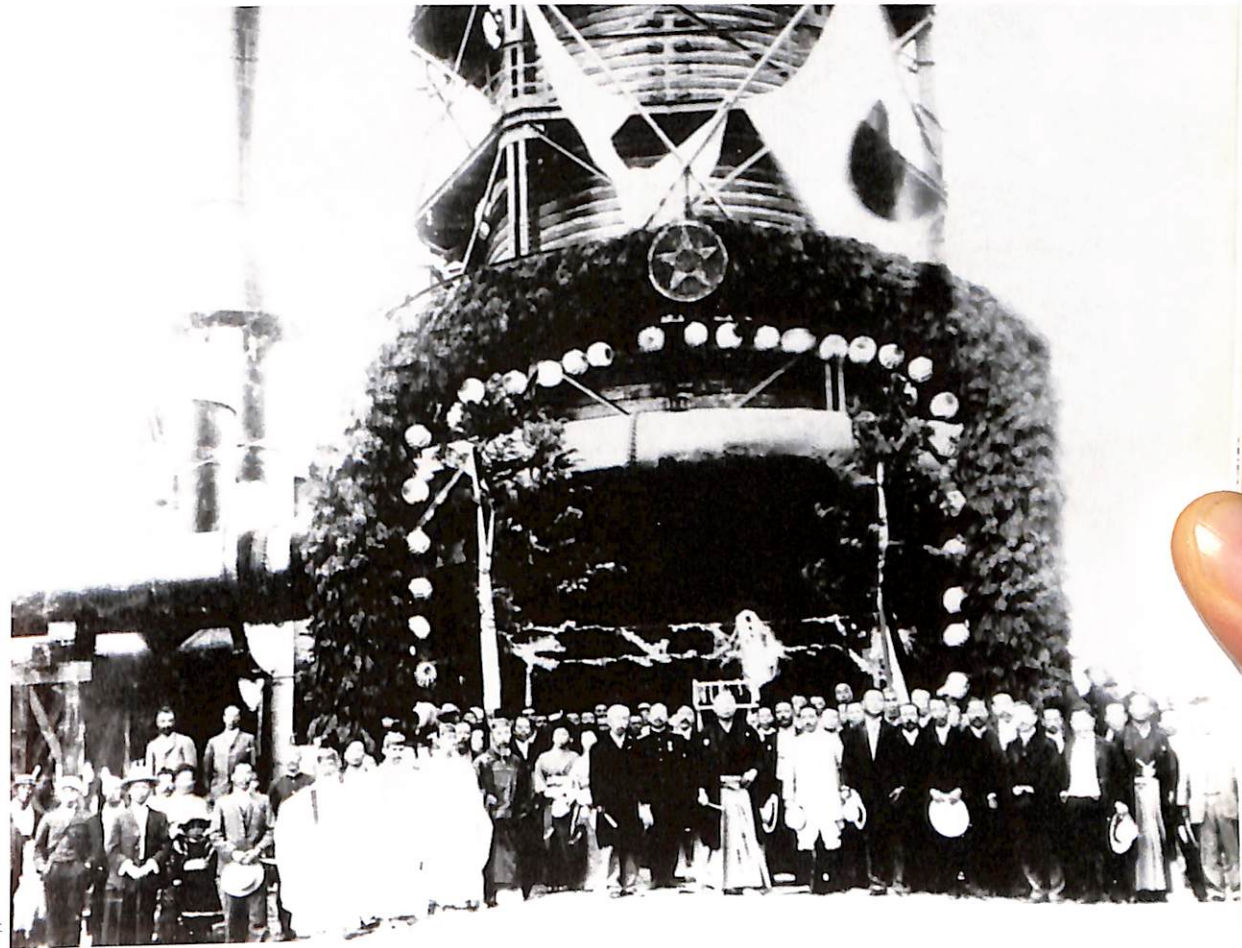
▶ブレリオ機、英仏海峡横断(7月25日)早朝、カレー海岸を出発、37分後に英・ドーバー城近くに着陸。写真は喜びのインタビュー。ブレリオ機は単葉機で、複葉機のライト機の3分の1の重さだった。

『新潟県の100年』新潟日報事業社

▲信濃川分水工事、起工式(7月5日)長年、洪水被害に悩まされてきた流域住民の悲願が結実。新潟・大河津から寺泊へ大河津分水を築造。大正11年完成。

毎日新聞社

▶輪西製鉄所、溶鉱炉稼働(7月18日)政府の軍備拡張策にこたえ、北海道炭礦汽船会社が日本製鋼所に次いで室蘭に新設。写真は火入れ式。後の新日本製鐵室蘭製鉄所である。

◀乃木希典、生徒の水泳指導(7月)学習院院長みずから生徒を片瀬海岸に引率。学習院の水泳演習地は明治45年、沼津に移転。写真は、遊泳を終えた乃木。

「イリュストラシオン」

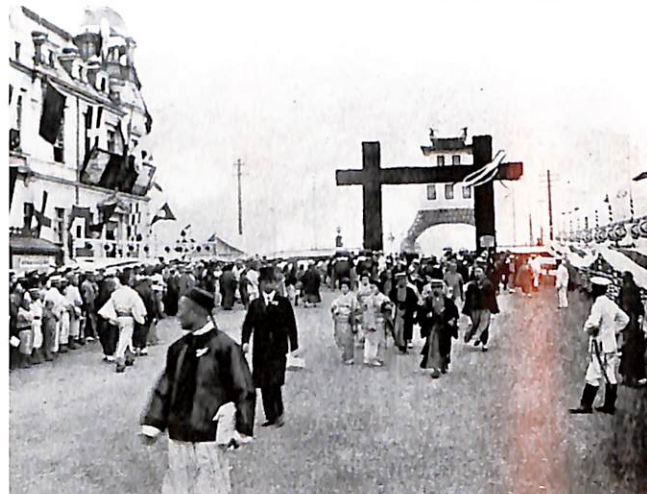
Fairchild Tropical Gardens／デジタルハウス

▲尾崎行雄東京市長、米国・ポトマックに桜を贈る(8月18日)東京・向島の桜に感動したジャーナリスト、シドモアの公園計画に、日米友好のしるしとして2000本贈呈を市が決議。写真は満開の2代目の桜と尾崎(中央)。

◀滋賀・岐阜県に強震(8月14日)午後3時半頃、かつての近江・美濃両国国境あたりを震源として発生。死者71人、家屋全壊1653戸。写真は、滋賀県東浅井郡の虎姫村の惨状。

▼横浜開港50年祭、挙行(7月1日)ペリー提督の黒船来航で目覚めた日本人が、安政5年に港を開いて半世紀。その急速な発展を祝し、5日間にわたって式典を繰り広げた。写真は式場への通路。

「写真タイムス」

▲臨時軍用気球研究会を設立(7月31日)陸・海軍が別々に行ってきた研究を一本化。世界に大きく立ち遅れた開発を促進した。写真は、明治44年完成の、日本初の軟式軍用飛行船。

「写真タイムス」

▲渡米実業団、シアトルに出発(8月19日)同市で開催中の太平洋博を見学するため、渋沢栄一夫妻はじめ、東京・大阪などの商人・学者・代議士ら49人が、横浜を出帆した。

▶清国、安奉鉄道改築の覚書に調印(8月19日)これで、日本はやっと工事再開。2年後に開通し、満鉄が韓国の鉄道と接続した。写真は、安東県満鉄事務所前から踏査に向かう両国委員。

「安奉線改築工事記念写真帖」

明治42年7月

1(木)●英国で炭鉱法発効(鉱内労働は八時間に)。
●横浜開港五〇年祭。
2(金)●千葉県立大原農学校に陳列の手榴弾が爆発。
3(土)●日糖事件関与の代議士らに判決、二三人有罪。
4(日)●新夕張炭鉱でガス爆発、坑夫五人死亡。
5(月)●東京に陸軍の代々木練兵場が完成。
6(火)●閣議、韓国併合を断行する方針を決定。
7(水)●鹿児島高等農林学校の設置決定。
8(木)●青森リンゴが不作で例年の四~五割と新聞に。
9(金)●千葉県の印旛沼が氾濫、水田約七〇町歩冠水。
10(土)●「自由思想」発行人・管野スガに罰金一〇〇円。
11(日)●日糖前社長の酒匂常明がピストル自殺。
12(月)●韓国と司法および監獄事務委託に関する覚書に調印(24日、統監府告示)。
13(火)●クレタ島管理国の英・仏・露・伊、トルコに撤兵を通告。
14(水)●殺傷事件多発で学生の凶器携帯取締り。
15(木)●仏の生理学者、アレクシス・カレル、臓器移植の動物実験に成功し研究成果を発表。
16(金)●バクチアリー族がテヘラン占領。ペルシャ国王、ムハンマド・アリ退位、アフマド即位。
17(土)●内務省令で病院・医院のすべての広告を禁止。
18(日)●北海道炭礦汽船の輪西製鉄所が六〇ﾄﾝ高炉で砂鉄製錬を実施(不調のため、20日に休止)。
19(月)●ツール・ド・フランス(仏一周自転車レース)で初めて外国人(ベルギー人)が優勝。
20(火)●仏・クレマンソー内閣、建艦計画失敗から崩壊。
21(水)●日韓瓦斯、日韓瓦斯電気と改称し、漢城(現・ソウル)の電灯・ガス・電車事業を独占。
22(木)●不景気のため太平洋航路が積荷減少と新聞に。
23(金)●京都に大雷雨、祇園祭の宵山が大混乱。
24(土)●逓信省、電気局と郵便貯金局を新設。
25(日)●仏のルイ・ブレリオ、単葉飛行機で初のドーバー海峡横断に成功。
26(月)●バルセロナの急進派がモロッコへの軍隊動員令に反対、ゼネストが暴動化(血の一週間)。
27(火)●東京の共同便所から糞尿を盗んだ三人を逮捕。
28(水)●富士山八合目の郵便局で電信電話業務開始。
29(木)●両国橋からの身投げ頻発に警官派遣と新聞に。
30(金)●森鷗外の「ヰタ・セクスアリス」掲載の雑誌「スバル」が発売禁止、と新聞に。
31(土)●臨時軍用気球研究会(会長・長岡外史陸軍少将)を設置し、航空機・通信・気象の研究開始。
●大阪市北区で大火、約一万四〇〇〇戸焼失。

明治42年8月

1(日)●名古屋電鉄の運転手・車掌八〇人、賃上げと労働時間短縮を要求してストライキ。
2(月)●露皇帝・ニコライ二世の訪英に反対デモ。
3(火)●静岡県に尺取虫大発生、茶・桑・松が大被害。
4(水)●安奉鉄道の安東(現・丹東)─秋木荘間開通。
5(木)●ヘンリー・フォード、生産車種をT型フォードに限定し、大量生産方式を本格化。
●米国がペイン・オルドリッチ関税法(平均税率三七㌫)を制定。
6(金)●伊集院彦吉駐清公使、清国に安奉鉄道改築強行を最後通告(19日、日清覚書に調印)。
●北京・天津・東三省で安奉鉄道問題に抗議して日貨のボイコットが始まる。
7(土)●両国川開き。花火観覧乗合船料は大人二〇銭。
8(日)●長崎県の山中でタバコを栽培し、密売した八人を逮捕。
9(月)●映画フィルム供給は全国で三業者、と新聞に。
10(火)●奈良原三次が複葉飛行機発明、特許出願。
11(水)●東京の営業税滞納一万二〇〇〇人余と新聞に。
12(木)●愛媛県の遭難漁船が大分に漂着、死者一七人。
13(金)●浅草公園の売春婦は一〇〇〇人以上と新聞に。
14(土)●滋賀・岐阜県下に大地震、死者七一人。
15(日)●関門海峡四ヵ所で船舶通信・潮流信号を開始。
16(月)●木戸忠太郎、清の遼寧省鞍山で鉄鉱床発見。
17(火)●閣議、完全な対等条約締結のための条約改正方針を決定。
18(水)●東京市参事会、尾崎行雄市長名でワシントンのポトマック河畔に桜二〇〇〇本寄贈を決議。
19(木)●渋沢栄一らの訪米実業団四九人が横浜出発。
20(金)●トルコ、英・露・仏の勧告でブルガリアの独立と立憲制樹立を承認する。
●桑田義備がイネの染色体数を決定。
21(土)●タフト米大統領、陸軍兵力八万人に削減命令。
●富士山頂─御殿場間で電話交換開始。
22(日)●仏で世界初の国際的な飛行大会開催。
23(月)●鉄道院、神戸─大阪間で最大急行列車試運転。
24(火)●秋田県の椿鉱山でガス爆発、二五人が死傷。
25(水)●大阪・京都・神戸で大がかりなスリ逮捕作戦。
26(木)●茨城県の日立鉱山煙害賠償契約が成立。
27(金)●上流夫人に自動車運転流行、と新聞に。
28(土)●栃木県の小学校就学率は九七・八㌫と新聞に。
29(日)●沖縄の地震で死傷三一人、石垣多数を破損。
30(月)●新宿山手線踏切は日に四三〇回開閉と新聞に。
31(火)●メキシコで大洪水、死者一四〇〇人。

「グラビック」

▲大谷武子(21)、結婚(9月15日)西本願寺法主・大谷光瑞の妹が、男爵・九条良致(24)と挙式。西本願寺から俗家への嫁入りは、300年来なかったという。後に歌人として活躍。

▲文芸協会付属演劇研究所、開所(9月)坪内逍遥が、近代劇推進のため自邸内に設立。写真前列左から二人目・松井須磨子、後列右から4人目・島村抱月。

▼フェノロサ、滋賀に改葬(10月10日)前年、ロンドンで客死した日本美術界の恩人の遺志をくみ、法学者・有賀長雄(写真右)らの尽力により、園城寺法明院に墓が建てられた。

「太陽」

中村屋提供

◀中村屋、東京・新宿に出店(9月)主人・相馬愛蔵がこの地の発展に注目、初の本格的カレーを発売した。後に「文化サロン」に発展、芸術家が集まった。

▶捕らえられた抗日義兵(9月)3次にわたる日韓協約調印は、義兵の暴動を激化させた。前年、日本は2万の軍隊を動員し「暴徒討伐」を実施。この年9月1日からは、全羅道を中心に討伐を開始した。

「イリュストラシオン」

▲ウィルバー・ライト機、「自由の女神」像を旋回(9月29日)英人探検家・ハドソンのニューヨーク寄港300年祭で、"大空の開拓者" が曲芸飛行を披露。前年には、2時間20分の飛行時間を記録。

明治42年9月

1(水)●米国のクックとピアリーの北極点到達をめぐる論争が起こる。
●駐韓日本軍、抗日韓国人の「討伐」開始。
2(木)●米作は例年の一七・三%増を予想と新聞に。
3(金)●東北・北海道で馬の伝染性貧血流行と新聞に。
4(土)●日清協約成立。間島での清韓国境を決定、撫順・煙台炭鉱の採掘権獲得など。
5(日)●香川県の赤痢患者、一三二二人に。
6(月)●東京期米相場は買い占めのため、九、一〇月の立ち会いを停止と決定。
7(火)●呉海軍工廠の第三ドック定礎式。
8(水)●東部鉄道管理局が駅弁の品評会、大宮駅は甲。
9(木)●文部省、学生生徒の飲酒取締りの強化を指示。
●川端玉章主宰の川端画学校開校。
10(金)●東京・深川公園内に市立深川図書館オープン。
11(土)●移民のメキシコ行き渡航費は八〇円と新聞に。
12(日)●海軍機関少尉練習艦「千歳」が横須賀帰港。
13(月)●ジュネーブでの青年エジプト大会、「英はエジプトから手を引け」と決議。
●文部省、専門教育でも修身教育の徹底を通達。
14(火)●閣議、日露戦争により生じた露との懸案解決案を決定(16日、露大使に覚書を手交)。
15(水)●政友会一〇周年記念大会、芝の本部で開催。
16(木)●スペイン新聞編集者会議、国王に新聞検閲廃止と憲法擁護保証の復活を要求。
17(金)●清国での商標を保護する日仏商標条約締結。
18(土)●英の婦人参政権論者二人がアスキス首相の乗った列車に投石(懲役刑)。
19(日)●上野図書館の前年末蔵書二六万冊余と新聞に。
20(月)●英で職業紹介所法成立(失業保険制度の最初)。
21(火)●豊橋瓦斯の株式申し込み、一万六〇〇〇倍に。
22(水)●海岸線(現・常磐線)の客車が雨漏りと新聞に。
23(木)●北海道尺別村の漁師が暴風で遭難、六人死亡。
24(金)●大谷光瑞、インドの仏跡巡拝のため京都出発。
25(土)●鉄道院、三割引きの満韓巡遊券を発売。
26(日)●佐賀県下で水害、死者七、流失家屋三七など。
27(月)●小学国定教科書を印刷・発行する東京書籍、日本書籍、大阪書籍、設立。
28(火)●東京府下南秋津に癩予防法による療養所が落成(後の多磨全生園)。
●女子教育家懇話会、良妻賢母教育として女子の男子に対する「べからず十訓」を作る。
29(水)●伊勢神宮「徴古館」開館式。
30(木)●富山県宇波村の山林田畑三町歩で地盤陥没。

証言・あの日この日
高浜虚子(35)

8月14日(土) 〈駕は漸く三島の町に降りて余は程なく伊豆鉄道の三島駅に立つた。余は大仁迄の切符を買つた。/さうして余の今度の行は修善寺に妻子を迎へに行くのが目的であつたといふ事を又強く意識した。後になつて判つたのは丁度此日の事であつた、彼の琵琶湖の北に激震があつて瞻吹山の一角がへし飛んだといふのは。余は箱根の再噴火も頼み難い事では無いと思つた〉(高浜虚子『高浜虚子全集』第14巻)

高浜虚子は、修善寺に滞在していた妻子を迎えに行く途中、寄り道して箱根山を散策、外輪山や噴火口の跡などを見学する。そして箱根山が再び爆発し、あたりを木端微塵に吹き飛ばすことなどを想像し、興奮しながら温泉宿に1泊したのであった。奇しくもこの日、琵琶湖周辺では激しい地震があった。 (山崎行太郎)

「写真タイムス」

◀福岡の炭鉱王・貝島太助、家憲制定(10月12日)家運の隆盛と家業の繁栄をはかるため、100条余を起草。一家の10夫婦など32人が上京(写真)。15日に、庇護を受けた井上馨侯爵邸で披露会。

ユニフォト・プレス

◀女性初の単独飛行に成功(10月22日)フランスのエリーズ・ド・ラロシュ男爵夫人が、ボアザン型複葉機で約300メートル飛び、快挙をなしとげた。夫人は翌年3月、女性初の飛行免許証も取得。

◀伊東屋文具店が竣工(10月15日)東京・銀座3丁目に白煉瓦造り、3階建ての瀟洒な建物が登場し、名物となった。大正12年9月、関東大震災で焼失。

「イリュストラシオン」

▲スペインで共和主義者・フェレル銃殺(10月13日)バルセロナでの反政府運動、「血の1週間」の蜂起を煽動したとされたが、処刑後、欧州各地で抗議デモ。写真は護送の様子。

◀大阪の天王寺公園開園(10月15日)内国勧業博覧会跡地に起工、日露戦争で病院敷地に徴用されて中断したが、やっと完成。市民に、約6万5000坪の憩いの場所ができた。

明治42年10月

1(金)●ウラジオストク、香港、広東、漢口の各領事館が総領事館に昇格。
2(土)●清国が自力で建設した初の鉄道、北京—張家口間二二〇キロが完成。
3(日)●東洋汽船の東洋最大の貨物船「紀洋丸」が進水。
4(月)●陸軍が豊後水道に要塞建設計画、と新聞に。
5(火)●神田の基督教青年会館で宣教五〇年記念会。
6(水)●姫路市役所で白鷺城保存期成同盟会開催。
7(木)●信越線御代田駅で列車衝突、重軽傷八人。
8(金)●仙台高等工業学校が落成し、開校式。
9(土)●色丹島に出漁の漁船が暴風で転覆、三人死亡。
10(日)●モロッコ北部のベルベル族首長らがスペインに降伏。
11(月)●三井家同族会管理部を法人化し三井合名会社設立。三井銀行、三井物産を株式会社に改組。
12(火)●鉄道院、主要幹線の呼称を「本線」と決める。
13(水)●スペインの共和主義者、フランシスコ・フェレル、「血の一週間」煽動のかどで銃殺。
14(木)●伊藤博文枢密院議長、満州視察に出発。
15(金)●第五回内国勧業博覧会跡地に天王寺公園開園。
16(土)●京都でコレラ患者一四六人、死者七一人に。
17(日)●茨城県玉川村で六三〇匁(二三六二グラム)の大ウナギが釣り上げられる。
18(月)●韓国で警察署長らに拘留・科料以下の罪に関し即決権限を与える犯罪即決令を公布。
19(火)●巣鴨監獄収容の囚人は二七〇〇人と新聞に。
20(水)●田山花袋『田舎教師』刊行。
21(木)●スペイン国王、自由党内閣を任命。
●農商務省、乱獲規制の鯨漁取締規則を公布。
22(金)●仏のラロシュ夫人、女性初の単独飛行に成功。
23(土)●東海道本線木曽川鉄橋付近で貨車同士が衝突、機関士ら数人が重軽傷。
24(日)●露・伊間にラコニギ協定成立(バルカン半島の現状維持、露の海峡通過権承認など)。
25(月)●駐韓日本軍に韓国軍人・軍属の犯罪を裁く特別陸軍軍法会議を設置。
26(火)●伊藤博文、ハルビン駅頭で韓国の民族主義者安重根に射殺される(11月4日、国葬)。
27(水)●内務省、日本旅館に「ホテル」名使用を禁止。
28(木)●憲政本党大会、政党内閣の樹立・地租軽減・財政改革・陸海軍備の整理などを決議。
29(金)●韓国の中央銀行「韓国銀行」設立。
30(土)●台湾に新高製糖、設立。
31(日)●四一年末の人口は五一〇〇万人余と新聞に。

▲英下院で「人民予算」可決(11月5日)ロイド・ジョージ蔵相(写真)が発案。海軍増強などで逼迫する財政を、高所得者への増税で補おうとしたが、上院は否決。

◀装甲巡洋艦「伊吹」完成(11月1日)呉海軍工廠で、2万4000馬力のカーチス・タービンを積む新鋭艦が完成。1万4636トン。写真は、停泊時の一斉射撃の公式。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▼山県有朋(71)、3度目の枢密院議長に就任(11月17日)伊藤博文亡き後、死ぬまで在任。写真はこの頃、私邸の椿山荘に行啓した皇太子(中央)と。その左に山県、乃木希典。

▶心斎橋、新装(11月23日)大阪最初の石造のアーチ橋に架け替え。ミナミを南北に通じる繁華街にあり、一躍新名所に。昭和39年、長堀川埋め立て後は歩道橋になった。

「グラヒック」

▶三越呉服店、慰安運動会(11月6日)店を臨時休業し、25両編成の列車を借り切って鎌倉へ。音楽隊・自転車隊をつらね、鶴ケ岡八幡に参詣、由比ケ浜で運動会に興じた。写真は、新橋駅出発の一行。

「三越歴史写真帖」

▲鹿児島本線、全通(11月21日)大畑付近には日本初のループ線を設け、矢嶽トンネル(写真)を掘削した。難区間の人吉—吉松間が開通。ついに、東京—鹿児島間が直通48時間に。

明治42年11月

1(月)●新鋭装甲巡洋艦「伊吹」、呉海軍工廠で完成。●神宮司庁、陰暦廃止の四三年暦を配布開始。●農商務省、宝石計量名称の省令を公布。一カラットは二〇〇ミリグラム。

2(火)●吉林省竜井に間島総領事館開館。●英のキッチナー元帥、陸軍視察のため東京着。

3(水)●鉄道院が貨物の運賃着払い制導入、と新聞に。

4(木)●近衛輜重大隊から出火、糧秣など焼失。

5(金)●英下院、ロイド・ジョージ蔵相提出の富者の負担をふやす「人民予算」可決(上院は否決)。

6(土)●明治天皇、栃木県高久村で特別大演習を統監。●ノックス米国務長官、英に満州鉄道の中立化案を提案(英が賛成し、12月、日・露に伝える)。

7(日)●東京・本所に無料宿泊所、開設。

8(月)●満鉄の複線完成で大連—長春間を四〇分短縮。

9(火)●岡山県稲倉村で一三万円余の紙幣偽造犯逮捕。

10(水)●新橋駅に有料(二銭)トイレ設置計画と新聞に。

11(木)●米国がハワイのパールハーバーに海軍基地建設を決定。

12(金)●東京天文台、ハレー彗星を撮影。

13(土)●東京・芝で朝鮮同志会発起大会。

14(日)●ブリュッセルでアフリカ向け武器輸出規制に関する国際会議(合意不成立)。

15(月)●七五三の男児に海軍式洋服と水兵帽が流行。

16(火)●四二年度新兵は七万七九〇〇人余、と新聞に。

17(水)●山県有朋を枢密院議長に、牧野伸顕を枢密顧問官に任命。

18(木)●強姦された看護婦が東京地裁に告訴し慰謝料一万円を要求、と新聞に。

19(金)●日・米間で太平洋横断無線電信試験開始。

20(土)●千葉県中山村に県立園芸試験場を開場。

21(日)●人吉—吉松間開通で鹿児島本線が全通。

22(月)●安奉線工事の邦人を馬賊が襲撃、一〇人死傷。

23(火)●大阪・心斎橋完成。大阪初の石造眼鏡橋。

24(水)●福岡県大之浦炭坑でガス爆発、二五五人死亡。

25(木)●「東京朝日新聞」、文芸欄(夏目漱石主宰)設置。

26(金)●文部省、翌年改訂する小学校教科書の五厘~一銭五厘値上げを発表。

27(土)●自由劇場、有楽座で第一回試演。

28(日)●仏下院、女性の八週間出産休暇法案を可決。●旅順白玉山頭で日露戦記念「表忠塔」除幕式。

29(月)●山口県響灘で「第二喜佐方丸」沈没、五八人死亡。

30(火)●高知市で大火、三二〇戸全焼。

▲鉄道院職員に制服着用義務(12月20日)前年、鉄道国有後の総合的管轄官庁として発足後、体制整備に乗り出し、服制を改正。写真は、奏任官の通常礼服。

▲ニューヨークにマンハッタン橋開通(12月31日)イーストリバーを眼下に、マンハッタン島とブルックリンを結んだ。「たわみ理論」に基づく、最新の2段式吊り橋だった。

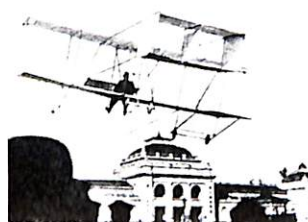
CORBIS-BETTMANN/PPS

▼気送管通信、開始(12月15日)江戸橋の東京中央電信局が、兜町株式取引所と神田郵便局との間に、パイプの中の空気の圧力差によって電報をやりとりする装置を完成。

「イリュストラシオン」

▲東洋学者・ペリオ(31)、ソルボンヌで探検報告(12月9日)3年前、中央アジア探検隊を率いてパリを出発。敦煌千仏洞で古写本などを発見し、この年、帰国。写真両側は探検隊のメンバー。

▶相原大尉、日本初のグライダー飛行(12月9日)東京・上野の不忍池で臨時軍用気球研究会の一員として試乗。見物人が見守る中を飛翔後、池に不時着。

▼丸善竣工(12月)洋書の輸入・事務用品販売・出版などの老舗が、東京・日本橋に本格的鉄骨構造ビルを設立。建坪約150坪。三井銀行を設計した横河民輔とともに、鉄骨構造の先駆者だった佐野利器が設計。

明治42年12月

1(水)●三越呉服店で万国玩具展覧会開催(デパートでの催事が始まる)。

2(木)●荒木貞夫陸軍少佐、軍事研究のため露駐在を命じられる。●東郷平八郎大将、軍事参議官に就任。

3(金)●石川県小松町で河川氾濫、四九六戸浸水。

4(土)●韓国一進会・李容九会長ら、韓国皇帝と日本の統監に日韓合邦の上奏文・請願書を提出。

5(日)●八王子の府立第四高等女学校落成式。

6(月)●高崎線、大宮—高崎間開通。

7(火)●浅間山、五月に続いて再噴火。

8(水)●茨城県日立銅山の産出額が年初の一・五倍に。

9(木)●相原四郎陸軍大尉の竹骨製複葉式グライダー(自動車が牽引)が滑空飛行に成功。

10(金)●勅令で幼稚園保母に判任官と同一の待遇付与。

11(土)●パリで米黒人の無制限ボクシング試合を挙行。

12(日)●一一月の出版物は三三一四冊、と新聞に。

13(月)●農商務省で産業組合中央会設立総会。

14(火)●ベルギーで徴兵制実施。

15(水)●逓信省、東京中央電信局と兜町株式取引所・神田郵便局間に気送管通信を始める。●竹久夢二『夢二画集』春の巻を刊行。

16(木)●ニカラグア大統領が保守派の反乱と米国の介入により退陣。●山手線一部区間で電車運転開始。

17(金)●米国のスタンダード石油がアンチ・トラスト法による解散判決を不服とし最高裁に控訴。

18(土)●米が日・英・仏・独・露に満州鉄道中立化を提案。

19(日)●軍旗祭で兵に支給する折詰は一個二五銭五厘。

20(月)●鉄道院職員服制改正公布。

21(火)●英最高裁、労働組合の政治運動否定判決。

22(水)●李完用韓国首相、日韓併合反対派テロで負傷。

23(木)●神戸で綿花積載の「択捉丸」が出火、二人焼死。

24(金)●賀川豊彦、神戸のスラム街に住みこみキリスト教伝道活動を始める。

25(土)●山田耕筰作曲の歌劇「誓の星」上演。

26(日)●ハンブルクでシオニスト会議始まる(~31日)。

27(月)●有楽座で在京鉄道員慰安忘年会、開催。

28(火)●内務省、退院する精神病者の調査票を内閣統計局へ送付するよう病院に命じる。

29(水)●生糸輸出は前年の一五〇〇万円増、と新聞に。

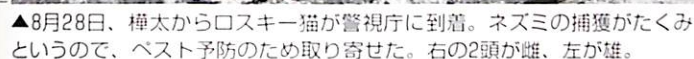
30(木)●新橋・横浜駅などに鉄道消防隊設置と新聞に。

31(金)●ニューヨークに二段式吊り橋のマンハッタン橋が開通。長大吊り橋設計のモデルとなる。

流行語
庶民の軽口も快調に

「なんてまがいいんでしょ」。この年、「酒は正宗、芸者は万竜、唄ははやりのマガイソング、ナンテマガイインデショウ」という歌が流行した。これがこの時代の余裕ある気分にマッチ、会いたくない人に会った時などの軽口として用いられた。

「武士道鼓吹」。人気絶頂の浪曲師・桃中軒雲右衛門の当たり文句。当時は日本的なものを見直す風潮が高まっていたので、その象徴として使われた。若者の間では一種の景気づけの文句としても流行した。

「催促髷」。若い女性が初めて結う島田髷。閨秀（女流）作家の榊原蕉園が初めて島田髷を結った時、伯母たちが「結婚したいという催促髷だよ」と言ってはやした。それから始まったという。

「パウリスタ」。学生の間で、かっこうをつけたがるものや、時代の先端ぶっているものをこう呼んだ。本来は銀座の「カフェー・パウリスタ」に出入りするものという意味で、ここに集まる芸術家や作家にあこがれて、かよう若者も多かった。それをからかって言った言葉が、さらに広がったもの。

「写真タイムス」

▲8月28日、樺太からロスキー猫が警視庁に到着。ネズミの捕獲がたくみというので、ペスト予防のため取り寄せた。右の2頭が雌、左が雄。

CM100年

新聞・雑誌CM 「大木五臓圓」（大木合名会社）◀後の日本画の大家・川端龍子がマンガを描いていた頃の広告。

大木五臓圓

泳げぬ人に浮袋!!

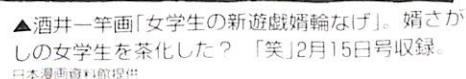
弱い人に大木五臓圓!!

社会
「猫を飼え！」と警視庁のお達し

警視庁が六日、左のような飼い猫奨励の告諭を発した。

「ネズミ駆除はペスト予防上、きわめて緊要のことであり、各戸ごとに猫を飼養するのは除鼠上有益なれば、平素猫を飼養し、ペスト予防の効果を収めんことを期すべし」

これにつき、栗本第三部長は「圧制的に奨励するのではなく、巡査が各戸を訪ねて行って〝猫を飼った方がいいよ〟と勧めることで、猫飼養思想の普及をはかりたい」と語っている。

（「万朝報」二月八日）

珍談
煖炉は新式のトイレ!? 開業、博多駅の困惑

〔福岡発〕新築の博多停車場は西国一と評判だが、一、二等待合室に設けられた煖炉を便所と勘違いして放尿する客が絶えず、駅でも困惑している。一日一回はかならずあり、それも世間にうとい農民の失敗ならともかく、上下の背広をぴしっと身につけた紳士が放尿して、警察に勾引されるといった例も起こっている。

（「福岡日日新聞」九月一一日）

▲酒井一竿画「女学生の新遊戯婿輪なげ」。婿さがしの女学生を茶化した？「笑」2月15日号収録。
日本漫画資料館提供

▶六月一五日、吾妻橋の札幌麦酒庭園で大相撲夏場所東西対抗の、東方優勝旗披露園遊会を開催。向島などの芸妓が余興。

「風俗画報」

三面記事

賞金は酒と村芝居に……

「グラヒック」

▲尾崎行雄東京市長の英国・ラムトン提督歓迎会が、5月6日、紅葉館で開かれた。杯を交わした後は、立食に席を移した。

明治四二年三月二一日、神戸・湊川埋め立て地から大阪の淀川大橋まで約三二キロのコースで、マラソン競走が行われた（九ページ参照）。フルマラソンより約一〇キロ短いが、これが日本で〝マラソン〟と名づけられた最初である。

出場したのは、予選を通過した二〇人。素足あり、地下足袋あり、ワラジありと、てんでのかっこうで、当時の神戸市長がテープを短剣で切り落としてスタートした。

優勝した在郷軍人・金子長之助さん（岡山県）のタイムは二時間一〇分五四秒。フルマラソンになおすと二時間五〇分となり、当時としては相当な記録である。優勝した金子さんは、優勝賞金三〇〇円と金時計、総桐の箪笥、酒など山のような賞品を抱えて郷里に凱旋した。

賞金の三〇〇円は今の金に換算すると二、三〇〇万円になるが、振る舞い酒とお祝いに行われた村芝居へのご祝儀で、あっというまに消えたという。

（「神戸新聞」昭和六二年六月二五日）

珍商売
意気高しニセ刀作り 秋田で腕競べ大会も

今の世に大ぴらにニセ物師と名乗って、「いい腕じゃ」とほめられる商売がある。贋銘師（ニセの銘刀作り）である。その贋銘師の腕競べ大会が、七日から秋田市で行われるという。

そこに集まる中でも、日本一の贋銘師は東京・神田の服部寿三郎氏（六〇）である。「本物と見分けのつかないニセ物を作って進ぜます」と言って、華族様や分限者の顧客をたくさん抱えている。氏はかつてニセの村正を作って、愛好家に売りつけようとした。それを聞いた鑑定家の家元・本阿弥成善氏が見せてもらったところ、稀に見る逸物だったので、本物なら三〇〇円のところを五〇円で買い入れ、〝ニセ村正〟と銘うって、丁重に保存している。

（「読売新聞」一二月一日）

◀ロシア・ウラジオストクの中学生を中心とする日本観光団が新橋駅に到着。小旗を振り、愛嬌を振りまきながら現れた。

「グラヒック」

醜聞
財閥夫人の密通 番頭と逃走中待った！

富豪・鴻池家の別家で、俗に〝和泉鴻池〟と呼ばれている鴻池新十郎の夫人・サチ子（三〇）が、同家の番頭・中山善四郎（三〇）と密通、駆け落ちして下関停車場前の旅館に宿泊しているところを警察に捕らえられ、本邸からの迎えに引き渡された。この密通は夫・新十郎が多情で、常に遊里にかよい、芸者を妾にして妾宅に入りびたり、最近六年間、夫婦の和合なきにより起こったものという。

（「国民新聞」一一月四日）

この年の初もの
米・GE社がトースターを発売

●消しゴム　東京の土谷ゴム、大阪の吉田ゴムが国産消しゴムの製造開始。

●ドッジボール　坪井玄道と可児徳が日本に紹介。当時は、円形ドッジボールと呼ばれた。

●バイク　二二歳の島津楢蔵が、国産バイク第一号を製作。「NS号」と名づけた。

●新聞の文芸欄　一一月二五日「東京朝日新聞」が開設。主任は作家の夏目漱石。

▶東京府下で王子神社の田楽祭が、八月一三日に行われた。美しい花笠の行列

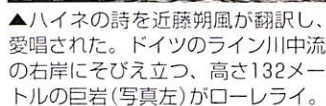
はやり歌

野なかの薔薇
訳詞　近藤朔風　作曲　ヴェルナー

童は見たり　野なかの薔薇
清らに咲ける　その色愛でつ
飽かずながむ　紅におう
野なかの薔薇
手折りて往かん　野なかの薔薇
手折らば手折れ　思い出ぐさに
君を刺さん　紅におう
野なかの薔薇
童は折りぬ　野なかの薔薇
折られてあわれ　清らの色香
永久にあせぬ　紅におう
野なかの薔薇

▶シューベルト作曲の歌曲と同じ詩に、ヴェルナーが曲をつけ一八二九年に出版した。シューマンの合唱曲バージョンもあるこの原詩は、文豪・ゲーテ（写真）作。

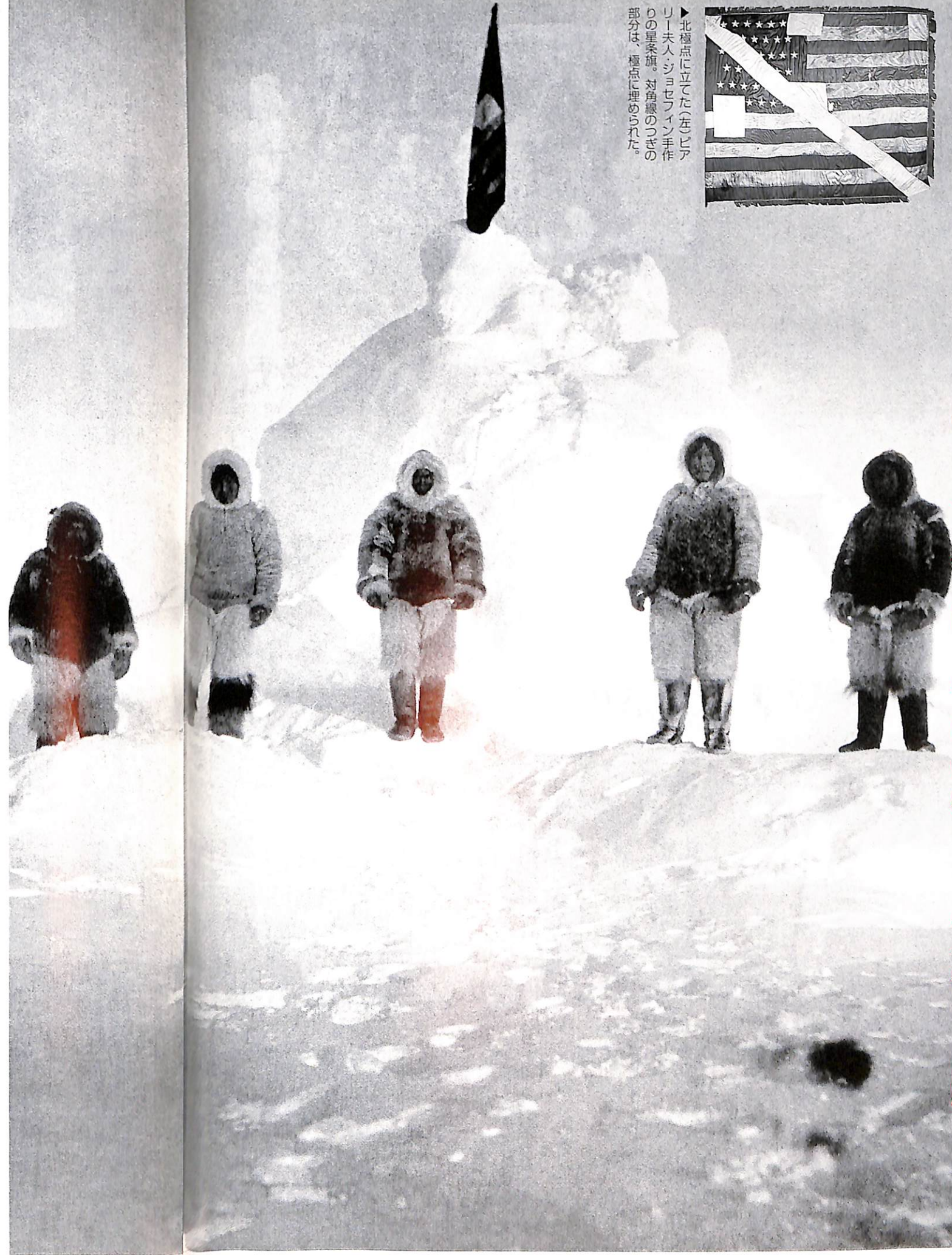
ローレライ
訳詞　近藤朔風　作曲　ジルヘル

なじかは知らねど心わびて
昔の伝説はそぞろ身にしむ
寥しく暮れゆくラインの流れ
入り日に山々あかく栄ゆる
美し少女の巌頭に立ちて
黄金の櫛とり髪のみだれを
梳きつつ口吟ぶ歌の声の
神怪き魔力に魂もまよう
こぎゆく舟びと歌に憧れ
岩根も見為らず仰げばやがて
浪間に沈むるひとも舟も
神怪き魔歌うたうローレライ

▲ハイネの詩を近藤朔風が翻訳し、愛唱された。ドイツのライン川中流の右岸にそびえ立つ、高さ132メートルの巨岩（写真左）がローレライ。

世界の動き

米紙はフレデリック・クックの"偉業"を報道
「初の到達者」の名誉と真偽をかけて大論争
ピアリー、執念の北極点征服！

▶北極点に立てた（左）ピアリー夫人・ジョセフィン手作りの星条旗。対角線のつぎの部分は、極点に埋められた。

▶北極点に立つピアリー隊。従者のヘンソン（中央）と、イヌイットの（左から）ウーケア、ウーター、エジングウォー、シーグルー。

National Geographic Image Collection

アメリカン・フォト・ライブラリー（2点とも）

一九〇九年九月一日、「ニューヨーク・ヘラルド」紙は、「北極点はフレデリック・クックによって征服された」と報じた。ところが、そのわずか五日後、ロバート・ピアリーが彼の後援会にあてて「我、北極点を得たり」と打電。相次ぐ極点征服のニュースは世界を驚愕させた。

▲1905年、ピアリーのために作られた「ルーズベルト号」。全長57メートル。

「イリュストラシオン」

「栄冠は自分一人だけ」と白人隊員の同行を認めず

一九〇九年四月六日朝——アメリカの探検家、ロバート・ピアリー（五二）と彼につかえる黒人のマシュー・ヘンソン（四二）、そして、四人のイヌイットと、四〇頭の犬が引く五台の犬ゾリは、わずか五キロほど先に迫った北極点に向けて、ひた走っていた。ピアリーの胸中には、一番乗りの晴れがましさがじわじわと広がっていく。

ピアリーは、自分だけにしか北極点に立つ資格はないと考えていた。そのため、最初は五人いた白人隊員を途中から少しずつ帰し、極点への同行を許されたのは黒人と四人のイヌイットだけである。

「栄冠は自分一人だけのもの、他人には渡せない……」

ピアリーにとって、北極点は「一生をかけた不動の目標」であり、今回の試みは「今度こそ勝たなければ、永久に負けだと覚悟した」闘いであった。こうした強い執念こそが、二三年にもおよぶピアリーの北極挑戦を"勝利"へと導いた原動力だったのである。

午前一〇時、あっけないほど簡単に北極点付近に到達した。ピアリーは日記にこう記す。

「ついに極点に達した。……夢に見、憧れのまとですらあった北極。ああ、ついに自分の手に。しかし、どうしても信じられない。こんなにたやすく到達できようとは……」

彼らはここに三〇時間ほどとどまり、太陽観測をして北緯九〇度を確認した。

ピアリーはおもむろに、妻・ジョセフィン手作りの星条旗を立てた。自分を合衆国の全権大使として北極点に星条旗を立てる"聖なる使者"と考えていたピアリーの、面目躍如たる瞬間であった。

九月六日、ピアリーはカナダ東部・ラブラドルのインディアン・ハーバーから「北極クラブ」にあてて電報を打つ。

「我、北極点を得たり」

ちなみに、「北極クラブ」とは銀行家のモーリス・ジーザップを中心にアメリカ政財界の大物を会員とするピアリー後援会で、ピアリーの北極探検費用として数十万ドルを注ぎこんでいる。

九月二一日、得意絶頂のピアリーがカナダ最南端のノバスコシア州・シドニー港に凱旋した。港には歓迎の船が並び、岸壁には大群衆があふれかえっている。この光景を目にしたピアリーは、「私の一生の仕事は終わった。私はアメリカ合衆国の名誉のために最後の地理学的大賞―北極点―を獲得した。私は満足している」と書いた。

しかし、ピアリーの満足は長続きしなかった。彼が打電する五日前の九月一日に、「北極点はアメリカ人医師のフレデリック・クック（四四）によって征服された」との記事が「ニューヨーク・ヘラルド」紙に掲載されていたからである。

▲「ルーズベルト号」上のピアリー。 ARCHIVE PHOTOS

海軍少将昇進と服役と明暗を分けた"その後"

クック著の『わが極点到達』によると、クックは九人のイヌイットと一〇三頭の犬が引く犬ゾリ一一台で、グリーンランド北西海岸のアノウトクを一九〇八年二月に出発している。そして三月一八日、犬二六頭、二台の犬ゾリで二〇歳のイヌイット二人とともに、極点をめざして北へと向かった。この日から三五日目の四月二一日、八〇〇キロを走破したクックは、ついに北極点に立ったというのである。

人一倍名誉欲の強いピアリーは、「英

雄は何人いてもいいが、最初の到達者は一人でなくてはならない」とばかりに、クックの北極点到達を否定した。なにしろ一〇万ドルもしたピアリーの北極探検船「ルーズベルト号」は現職大統領の名を冠したものであり、大統領自身からも「ピアリーの北極点到達にまさるアメリカ的なくわだてはあるまい」とのメッセージももらっている。つまり、彼の双肩には合衆国の威信がかかっているのだ。いわば国家的事業とでも言うべき北極点到達の名誉を、他人に奪われるわけにはいかなかったのである。

アメリカ史に詳しい猿谷要東京女子大学名誉教授は、

「当時のアメリカは、国外への関心が高かった。ルーズベルト大統領も海外進出の野心を隠さず、"海を征するものは世界を征する"というのが時代の気分だった。独占資本家たちがこぞってピアリーを応援したのは、北極征服が国家的な事業であるとともに、自分たちの実力を見せつける絶好の機会だと考えたからだ」

と指摘する。

すさまじいクック攻撃が始まった。ピアリー側は、クックの「私の記録は正当なもの」との言い分に、「十分に経験を積んだものなら、極点の観測データを偽造し、専門家の眼をあざむくこともできる」と主張。また、クックと行動をともにしたイヌイットの「彼は陸地が見えないところまでも行っていない」との発言を暴露し、クックを「ほら吹きのペテン師」呼ばわりした。

論争の行方は、ほぼ一ヵ月で決した。次第に形勢が悪くなったクックはいたたまれなくなり、ヨーロッパに脱出する。そして約一年後に帰国するが、地理学協会も、国会の査問委員会も、すでに判決を下していた。北極点征服の栄冠はロバート・ピアリーのものである、と。

その後、ピアリーには最初で唯一の北極点到達者としての栄光が与えられ、海軍少将に昇進した。一方、世間をあざむいた"前科者"とされたクックは、わずかな罪のために服役することになる。まさに明暗を分けた形の二人だが、北極点到達の真偽については、双方にこれといった証拠がないため、今日にいたるまでさまざまな論議を呼んでいる。

ロバート・E・ピアリー(1856〜1920)
アメリカの海軍軍人、探検家。北極探検を志し、そのための五回にわたるグリーンランド調査の後、四回におよぶ挑戦で、ついに北極点に到達した。

▲登山家、探検家として知られていたクック。妻子とともに。

イリュストラシオン

外から見たNIPPON

"天皇の主治医"ベルツがドイツで聞いた伊藤博文暗殺の衝撃

——佐伯　修

明治「文明開化」の"助っ人"として、欧米から多数招かれた各分野の専門家、いわゆる「お雇い外国人」の中でも、エルウィン・ベルツ(一八四九〜一九一三)の名はひときわ知れわたっている。

ドイツ・シュヴァーベン生まれの内科医師・ベルツが、プロシャ式医学導入を進める日本政府の招きで来日したのは、明治九年六月のこと。当時二七歳の彼は、生理学や病理学との連携を重視した新しい内科学の旗手・ウンデルリヒ門下の逸材だった。東京大学医学部の前身、東京医学校の生理学教師となった彼は、日本の近代医学のパイオニアたちを育てる一方、結核、寄生虫病、脚気といった、当時の日本に蔓延していた病気を研究、おもに生活改善や教育によるそれらの予防と克服をはかった。学校での検便や、体操、臨海学校などの普及、草津などの「湯治」文化の再評価による「温泉は体にいい」という考え方の常識化など、今も私たちの周囲には彼の"遺産"が数多く生きている。

▲「蒙古斑」の発見者でもあった。

ベルツはまた、明治天皇と皇太子(後の大正天皇)の主治医を長くつとめ、伊藤博文ら政官界要人とも交際しつつ、湯治場の人々ら一般庶民とも接し、明治日本の観察者ともなった。当初二年の契約で来日した彼の日本での活動は、結局、明治三八年まで二九年間におよび、その間の刻明な日記は、花夫人との間の長男・トクの手で『ベルツの日記』として公刊されている。

ベルツは帰国後も日記を書き続けたが、その中には少なからず日本についての記述が見られる。また彼は、明治四一年に、伊藤博文の要請で再び来日、皇太子を診察した。その間のことは日記から欠落しているが、彼は日露戦争後の日本国内の変化には失望していたと言われる。

そしてこの年、還暦を迎えたベルツの身にはさまざまな病変が起き、七月には胸部の膿瘍除去手術を受けて一命をとりとめる事態となる。日本からは、皇太子や医学関係者らから見舞いの電報が届き、ベルツは、結核医療に専心する旧友、高田畊安の友情に、特に感激している。だが、一〇月二九日、彼はハルビンで伊藤博文が安重根に射殺されたことを知り、衝撃を受ける。ベルツは伊藤の朝鮮政策を「日本のすべての政治家の中で最も温和な政策」と弁護、「わたしは非常に感謝していた真の友人を失った」と、深い嘆きを日記に記す(安井広『ベルツの生涯』より)。伊藤の死は、彼にとって、心許せる昨日の日本が、またひとつ消えたことを意味していた。

往きて還らぬ

▲9月9日　E・ハリマン(61)
米の実業家。株仲買人からスタート。1903年にはユニオン・パシフィック鉄道重役会長となり、鉄道王に。

▲4月15日　山川登美子(29)
歌人。「明星」の中心的同人の一人。明治38年与謝野晶子らと共著『恋衣』刊。清楚な歌で魅了したが、結核で死亡。

高島屋提供
▲2月25日　飯田新兵衛(58)
京都の豪商・飯田新七の長男で、高島屋呉服店3代目当主。美術織物で知られ、ニューヨーク、ロンドンにも出店。

▲1月19日　初代梅若実(80)
能役者。才気あふれる芸風で、16代宝生九郎、桜間伴馬とともに明治の三名人と言われた。後継者育成にも尽力。

毎日新聞社
▲10月19日　C・ロンブローゾ(72)
伊の精神病理学者。犯罪人類学の創始者。天才と精神病者の類似点の研究で有名。著書に『犯罪人論』『天才論』。

▲6月22日　西川藤吉(35)
養殖真珠の創始者。明治38年世界初の真円真珠の養殖に成功。御木本幸吉の次女と結婚したが、癌で死亡。

毎日新聞社
▲4月28日　由利公正(79)
政治家。「五箇条の誓文」起草に参画。その後、維新財政を担う。明治4年東京府知事。元老院議官、貴族院議員。

▲1月14日　Z・ロジェストウェンスキー(60)　ロシアの提督。中将。日露戦争時、バルチック艦隊を率いた。日本海海戦で敗れ、捕虜となる。

読売新聞社
▲12月10日　本野盛亨(73)
官僚、実業家。横浜税関長をつとめる。明治3年英和辞書印刷の日就社創設。7年「読売新聞」創刊、2代目社長。

▲8月6日　斎藤野の人(31)
評論家。東京帝大卒。「時代思潮」などに執筆、天才主義・個人主義を鼓吹。評論集『芸術と人生』。高山樗牛は兄。

▶12月27日　依田学海(76)
演劇評論家。小説家。演劇改良運動に情熱を注ぐが、改良論が性急すぎ孤立。小説『侠美人』など。左は夫人。

▲5月10日　二葉亭四迷(45)
小説家で、近代文学の先駆者。明治20年『浮雲』刊。ツルゲーネフの翻訳も手がけた。訪露の帰途、船中で病死。

▲1月24日　野村靖(66)
政治家。幕末は尊攘運動を展開。明治4年宮内権大丞。後、内相、逓信相を歴任。33年枢密顧問官。子爵。

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第90号 12月1日(火)発売 定価560円 毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1910［明治43年］

●特集
〝日帝三六年〟がスタート 「韓国併合条約」調印！／被告二四人に死刑判決 でっちあげ！ 幸徳秋水と「大逆事件」／東京帝大教授などの前で透視に成功！ 御船千鶴子〝千里眼〟実験のカラクリ／コナン・ドイルも小説にした恐怖 「ハレー彗星大接近」パニック！

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…清国軍がチベットに進駐(2月25日)／秦佐八郎、梅毒の特効薬を発見(4月19日)／広瀬中佐の銅像除幕式(5月29日)／東日本に大洪水(8月8日)／「韓国」の国号を「朝鮮」に変更する勅令(8月29日)／文豪・トルストイ死去(11月20日)／日野熊蔵大尉、日本初飛行(12月14日)

●人物クローズアップ
「最後の将軍」徳川慶喜の隠居

●決定的瞬間
独裁者に抗して「革命児サパタ」戦列へ

●美の出会い
藤島武二、滞欧中の二七点一挙公開！

●女たちの肖像…一平と結婚、岡本かの子の才能開花！／**勝者・敗者**…大碇紋太郎、相撲ショーで英国巡業／**証言・あの日この日**…佐久間勉、平出修／**「現場」を歩く**…逗子開成中学ボート遭難事件と哀歌／**20世紀博物館**…真珠博物館(三重)／**外から見たNIPPON**…A・イブラヒムが目撃した「仁丹と広告」

●ベストセラー…柳田国男『遠野物語』／**スターと名場面**…尾上松之助「忠臣蔵」／**モノ語り'10**…「クラブ白粉」「金鳥香」

日録20世紀専用バインダー

高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付しました。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中（既刊89冊！ 1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九一〇年代

一九二〇年代

一九三〇年代

一九四〇年代

第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九〇〇年代

■今後の刊行予定

▶第91号1991［平成3年］12月8日発売
雲仙普賢岳、恐怖の大噴火！●「湾岸戦争」勃発●続発！ 金融犯罪と〝闇の紳士〟●「ソ連邦」消滅！

▶第92号1992［平成4年］12月15日発売
尾崎豊、26歳の突然死！●三内丸山遺跡発見●野坂参三、除名●ボスニア内戦「民族浄化」の狂気

▶第93号1993［平成5年］12月22日発売
皇太子・雅子さん、ご成婚！●「ダイオキシン」、母乳から検出●Jリーグ開幕！●〝麻薬の帝王〟エスコバル射殺

▶第94号1994［平成6年］平成11年1月6日発売
向井千秋さん、宇宙へ！●河野義行氏が語る松本サリン事件●平成「米騒動」●金日成急逝！

▶第95号1995［平成7年］1月12日発売
阪神・淡路大震災！●「地下鉄サリン事件」●「米兵暴行事件」と沖縄の怒り●「ウィンドウズ95」日本発売！

▶第96号1996［平成8年］1月19日発売
ペルー日本大使公邸占拠！●中坊公平、住管機構社長に就任●「O157」の恐怖●ダイアナ妃、離婚！

ミニ事典

1909年のキーワード

未来派宣言
イタリアの詩人・マリネッティが、フランスの二月二〇日付「フィガロ」紙上に発表した宣言。機械文明を積極的に取り入れた革新的芸術の開花をうたった。これに呼応して、ボッチョーニらが、翌年、未来派画家宣言を発表し、運動の速度をテーマにした絵画を次々発表。その理念は、建築、音楽、映画、写真、装飾美術など、あらゆる芸術領域に浸透し、伝統の否定、新しい美学の樹立を迫った。

種痘法
新生児への天然痘予防接種の義務化などを定めた法律。四月一四日公布。翌年一月一日施行。天然痘は明治三〇年をピークに減ってきていたが、きわめて伝染性が強く、幼児の罹患率は依然高かった。種痘は、天然痘ウイルスよりずっと弱いワクシニアウイルスの接種によって免疫を得ようというもので、一七九六年にジェンナーが発見して以来、天然痘に対する最も有効な予防方法とされた。

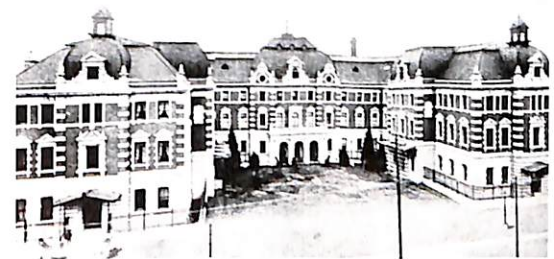
「自由思想」
幸徳秋水・管野スガらが、平民社から発行した社会主義雑誌。四ページだて、定価四銭。「赤旗事件」後、社会主義運動に対する官憲の弾圧は一層厳しさを増し、この雑誌も五月二五日付で第一号、六月一〇日付で第二号が刊行されたが、たちまち発売禁止となった。「一切の迷信を破却せよ、一切の陋習を放擲せよ」とある発刊の辞は、明らかに天皇制国家に対する挑戦だった。

▶「自由思想」第一号。編集・発行人の管野スガは発禁処分で罰金刑。

テトロドトキシン
毒フグの内臓や組織内に含まれる神経毒。六月二六日発行の「薬学雑誌」で、東京衛生試験所長・田原良純がフグの卵巣中から毒素を抽出と発表、それがテトロドトキシンだった。フグ中毒は摂取後、三〇分から一時間でしびれ、嘔吐を起こし、激しい場合は呼吸困難をきたし死にいたる。中毒の強弱は毒素量により、死亡率は三〇～七〇パーセントに達する。

鞍山製鉄所
日本の満州（中国東北部）経営の柱となった製鉄所。八月一六日、満鉄地質調査所長・木戸忠太郎が清国の遼寧省鞍山で、推定埋蔵量約一〇億トンもの大鉄鉱床を発見。しかし、清国側は満鉄による採掘を認めず、大正四年五月の「対華二一ヵ条要求」にともないようやく実現。七年、満鉄は鞍山製鉄所を設立、翌年、第一溶鉱炉の火入れが行われた。

「べからず十訓」
東京の各種女学校男女教員で構成する女子教育家懇話会が、九月二八日、「若き婦人の男子に対する心得」として発表した一〇ヵ条。明治四〇年に、高等女学校生徒数が全国で四万人を突破。女子の社会的進出とともに、良妻賢母教育の必要が叫ばれていた。「男子と面接する時は適当な同伴者を要す」「単独に居住する男子を訪問すべからず」「日没後は外出すべからず」など。

三井合名会社
三井財閥の多角的事業の統轄機関として組織された持ち株会社。日露戦争後、傘下事業が急膨張したため、この年の一〇月一一日、従来の三井家同族会管理部に代わって設立。資本金五〇〇〇万円。出資社員は、三井家同族一一家に限られた。社長は三井八郎右衛門高棟。三井銀行・三井物産・三井鉱山の全株式を独占して、その投融資、人事、事業方針を決定、大正中期には傘下会社が三十数社におよんだ。

▲三井家最高顧問・井上馨侯爵が、三井家の根本的改革とも言うべき一大株式会社の創立を承諾。写真は合名会社。

毎日新聞社

本線
国有鉄道の主要幹線。一〇月一二日、鉄道院が線路名称を付して制定。東海道本線（新橋—神戸）、山陽本線（神戸—下関）、東北本線（上野—青森）など。明治三九年、政府は軍部・産業資本の要請を受け、鉄道の画一化・能率化をはかるため鉄道国有法を公布、私鉄一七社の鉄道を買収し、総キロ数の九〇パーセントを国有化、主要幹線を次々誕生させた。

鯨漁取締規則
鯨の乱獲規制のため、農商務省が一〇月二一日に公布した法律。一一月一日施行。捕鯨船は全国で三〇隻以内とする。捕鯨・加工業者を五年間の許可制とする。鯨の種類・漁期・捕鯨区域などを定め、違反者を罰するなど。日本もこの頃、高速汽船の船首に捕鯨砲を設置したノルウェー式近代捕鯨を導入。前年には四社合併で明治水産を設立、世界的乱獲競争の仲間入りをはたしていた。

▶鋼鉄製捕鯨船の船首に設置された捕鯨砲と外人砲手・ピーターソン。

韓国銀行
日本統治を目前にして韓国に設けられた中央銀行。一〇月二九日設立。資本金一〇〇〇万円（うち三〇〇万円を韓国政府が出資）。初代総裁・市原盛宏。第一銀行朝鮮支店の業務を継承して一一月に開業。韓国併合後の明治四四年に朝鮮銀行と改称した。明治一一年に釜山に進出した第一国立銀行は、三五年に銀行券発行の特権を得て、民間銀行支店でありながら実質的に韓国中央銀行の役割を担っていた。

産業組合中央会
農家経営の保護、販売・購買の共同化、金融などをめざして全国各地で自生的に育ってきた協同組合を、指導・統制するために組織された中央機関。一二月一三日設立。政府資金の貸し付けが始まると約六割の市町村に組合ができ、次々に府県連合会が作られた。大正九年の傘下組合数は約一万三四〇〇、全市町村を網羅するまでになった。

CONTENTS

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1909

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室 茂村巨利・渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マノクス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正

●写真協力
石井豊 石井美雄 江頭徹 生出恵哉 大畑俊男 桑原英文 但馬一憲 田代真一 フォン・ザス 水子
ARCHIVE PHOTOS アメリカンフォト・ライブラリー 「イリュストラシオン」 くれせんと CORBIS BETTMANN デジタルハウス 新潟日報事業社 PPS Pop per foto 平凡社 毎日新聞社 ユニフォト・プレス 読売新聞社 アルティス 資生堂 高島屋 中村屋 Fairchild Tropical Gardens 三越 アメリカ文化センター 大原美術館 賀川豊彦記念・松沢資料館 倉紡記念館 呉市企画部海事博物館推進室 国立国会図書館 康図書館 渋沢史料館 浄心寺 セイコー時計資料館 秩父宮記念スポーツ博物館 調布市武者小路実篤記念館 逓信総合博物館 栃木県立美術館 National Geographic Image Collection 那須オルゴール美術館 日仏会館図書室 日本カメラ博物館 日本近代文学館 日本のあかり博物館 日本美術院 日本漫画資料館 日本民藝館 北海道大学附属図書館 吉澤野球史料保存館 Library of Congress 龍谷大学図書館

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1909
●伊藤博文暗殺！
12月8日号
第2巻第46号 通巻89号
平成10年12月8日発行（毎週火曜日発行）
平成10年8月21日第三種郵便物認可
編集人 近藤達士 発行所 株式会社 講談社 郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
発行人 丸本進一 発売所 会社 講談社 （編集）03-3944-1295（販売）03-5395-3604
定価560円
本体533円

雑誌 23712-12/8 T1123712120565
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社